

The Kansai University Bulletin

Osaka, January 15th, 1928 - No. 55

報學山里千

行發日五十月一

號

年

新

年三和昭

Crepuscule at Senriyama Compound of the University.



照夕の山里千

阪大

堀佐土話電
番〇七三七・九四〇一

局報學學大西關

座口金貯替振
番五七八二一阪大

號五十五第

千里山學報 第五十五號

目次

- 挿繪——千里山の夕照(表紙)——來學せるベルギー大使バツソンビエール氏——學庭に記念の植樹をするベルギー大使——第二商業學校教職員の宮島、木下兩氏送別會——校友後藤田德太郎氏——ベルギー大使來學記念攝影——關西大學神戸會發會式——故ウィーザー教授ミウィー大學
- 發明の本質を論ず
- 關西大學講師 野村次夫
- 學内報——ベルギー大使來學——白國美術講演會——宮島事務理事辭任——木下幹事辭任——垂水理事の事務理事補佐——教授講師辭任——宮島、木下兩氏送別會——臨時協議員會開——學部第二學期授業終了——大學豫科第二學期授業終了——專門部第二學期授業終了——專任教員會開催——通常協議員會開催——新事務理事決定——協議員菅沼豐次郎氏の計——講師瀧村斐男氏の計——講師入江真太郎氏轉居——附屬甲種商業學校發報附屬第二商業學校發報——校友の面影——後藤田德太郎氏
- 校友發報
- 千里山學報維持費受領報告
- 學生發報
- 陸上交通の發達とその地理學的考察
- 關西大學講師 中村良之助
- 故ウィーザー教授略傳
- 千里山俳壇

發明の本質を論ず

關西大學講師 野村次夫

本稿は特許保護の客體たる發明の法理的意義を説明せんとするものではあるが學報局よりの突然の御依頼に基いて筆をこつたもので大體コーラー教授の *Lehrbuch des Patentrechts*, 1908 第二十一頁乃至第六十頁迄の所論の大綱を紹介したに過ぎぬものである。

一

發明は創造 (Schöpfung) である、創造は發見 (Entdeckung) に對して謂はれることであるから發見の本質を述ぶることを必要とする。發見とは從來から既に自然界に存在はして居たが唯世人が之に氣が付かぬ爲利用せられずに居るものを世人に掲げ之が注意を喚起することである (Enthüllung od. Entschleierung dessen, was bereits in der Natur vorhanden ist) 而して斯る發見なる現象は獨り有體物 (körperliche Dinge) の範圍に就てのみ爲さるるのみならず無體物例へば物理學上の力の發見。否一般に廣く自然法則の發見 (Naturgesetze, Normen, unter denen die Natur wirkt) に就ても起り得ることである。然しながら斯る發見は發明と異なり凡て特許保護の客體とはなれない(之に關する判例としてコーラーは R. G. 4. März 1903. を舉げて居る)。

TO ALL OUR FRIENDS ABROAD
we extend our very best wishes for
a Merry Christmas and a Happy
New Year.

EDITORS,
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN.

あるが然し元來發明と發見とは全く關係のないものではない。例へば此處に新式の擴大鏡が發明せられ之を利用してバチルスを着色することに成功したと云ふ様な事實を見るべき我々は發明と發見との間に一の因果關係が存する事を知るのである。即ち此場合には新式擴大鏡の發明と云ふことが原因となり手段となりて人類の發見に關する能率を從來以上に

高め之に依つてバチルスの着色を可能ならしめ之に關する學說の發見を誘導せしむるに至つたからである。之は發明の進歩が發見に及ぼした影響の一面であらうが之以上に大切な事は發明と發見との本質的關係である。凡そ右に述べた様な發明と發見との概念上の區別は現在に於ける人智を標準としての事であるが若しも我々人間が全自然界の森羅萬象を完全に洞察することが出来るか假定したならば現在我々が發明と特に稱して發見から區別して居る處のものも結局は發見の中に一緒になるべきものであると云ふことである。若しも此の假定が實現したならば我々は無限に多數の可能なる結合中より任意其の一を選択し之を實際に應用することが出来且つ斯くせねばならぬことにもならう。然しながら斯様なことは現在の人智では出来ぬ相談である。茲に於て我々は斯る人智の及ばざる範圍内に於て――

――斯る人智の及ぶ範圍外に於ては云ふた方がよいかも知れぬ――は發明に(發見は出来ぬから)頼らねばならぬと云ふことになる。そこで發明の本質は無意識で(因果の法則は知らないで)何等かの事物の結合關係を觀察し乃至は少くも之を應用し以て或る結果に達するに云ふ點に存する。然しながら一方に斯る無意識的の發明家は發明家としては自然界の法則を認識し此の知識を意識的に利用し一の結合關係をつくり以て或る結果を達した處の人人と一處に立たねばならぬ(意識的の發明家は無意識的の發明家といづれが損得であるかは場合に依つて異なると思ふ、意識的の發明家が其の原理を知つて居るので比較的樂に發明が出来るに反し無意識的の發明家が原理を知らざるが爲に長年の艱難苦勞の結果漸く目的を達したと云ふが如き場合には後者の方が損である様にも考へられるし意識的發明家が長年の原理の研究の結果漸く目的に達したものを無意識的發明家が偶然何等の困難なく發明したと云ふが如き場合には前者が損の様に考へられる)。意識的發明家は斯る原則の發見は發明とはならぬが斯る抽象的の原理を具體的の場合に就て實用的にすることが發明家としての彼に残された任務である。而して斯る抽象法則の具體化は大抵の場合後述すべき所謂組合せ (Konstruktion) の方法に依り即ち技術的補助手段の適用に依り必要な結合關係を實現せしむることが可能である。斯ういふ次第で或人が「レントゲン」光線の技術を認識することなく單に之を無意識に物體の透視に應用した場合にも發明であるを謂ひ得る。一方此の發明は又或人が此の「レント

ゲン」光線の特質を発見し洞察したる上之を技術的に利用し此の光線を實現せしむる爲の器を作つた場合の發明と同等に置かれねばならぬ。換言すれば所謂發見であつても之をして新たな結果を達せしむる爲に組合せを添付した場合には之を所謂發明と同視すべきである。此場合當該發見家自身が組合せを爲しても或は彼が此の目的の爲に技術家と協力してやつてもどちらでも發明となる。之に反し當該發見家が其の發見を社會に公表し然る後何人かが彼とは何等連絡なく組合せを爲した場合に於ては發明は存在せぬことになる。

學問的洞察はなく只天才的眼光を以て新規性を樹立した場合に發明が存在するとするならば右の外に猶深い學問上の知識を獲得し従つて之を基礎として組合せ技術の助を以て最終結果に到達した場合に同一の權利が附與せらるべきは當然である(自然法則が學問的に認識せられ之に基き裝置を作り之に對し特許權の附與を受けた實例としてコーラーは次の判例並審決例を擧げて居る、R.G. 28. Okt. 1903. Patentant S. Febr. 1904.)。何となれば認識中に存在する學問的な過剰の部分が特許權獲得の障害となることは甚だしく不合理であるから、例へば輕氣球から地下の道路を正確に觀察し之に依り地圖を畫き之を利用して複雑なる道路網に於ても方角を失はぬ方法を考へた者は少くも強烈なる土地敏感性を有ししばらく中に市内の全道路に精通する才能ある者同一視せらるる事を要する。其他發見を所謂工業的に利用する爲に發見に事實と發明なる所爲が加はらねばならぬ場合に於てそれが發明たる事に妨けなきは當然

である。

二

技術的意味に於ける發明とは人類の知識より出でたる新たな創造である、換言すれば通常人類の經驗乃至技術を以て從來不可能なりし何等かの關係が創造せられたのである。従つて又從來の文化發展の階梯に未だ屬せざ

なる創造が特に才能ある人人に依つて行はれ其他の平常人が之に追隨して行くからである。而して今日最も必要なることは右の如き方法で發明せられた考を一般世人に近接し易き様になし且つ之を通常の技術手段を以て人類經濟の客體たり得る様に形成することである。

次に技術的意味に於ける發明は人智に依り自



氏ルーエビンソツバ使大ーギルペるせ學來

りし或物を含んで居るものである。

新たな創造が可能である云ふのは從來明瞭になつて居らぬ關係を探索し之を意識的に研究して明瞭にし或は直觀的の鋭眼を以て之を探し當てることの出来る種類の人類が存在することを前提とする。

人類の文化が發展するのは主として斯る新た

創造せられることである、換言すれば審美的創造にありては藝術的想像力の無限性に依つて我世界の展開が反射させられるのであり技術的創造即ち發明にありては我我の世界の展開其物の範圍内に於て何物かが人類意思の表現として創造せらるるのである。人類の努力は自己を自然自體の中に没入せしめ且つ自然を自己精神の奴隸たらしむるにある。故に發明とは常に自然の中に存する力を利用して自然を征服せんこの目的に向へる新たな創造であること謂ひ得る。

審美的創造は假令それが如何なるものであつても決して特許法の客體と成し得るものではないが斯る繪畫乃至色彩の配合を何等かの材料に寫出すべき方法は特許法の客體となり得るものである。故に例へば色素を膠着せしむる方法、壁畫の濕氣其他雨露の障害を防ぐ方法等の如きは特許せられ得るものである。

單に精神的効果 (geistige Wirksamkeit) を與ふるに過ぎざるものは特許保護を有さない、例へば或る工場内の作業法、一定の生活法、一定の語法、一定の文體、一定の音樂合唱法等は決して特許保護の客體とはならぬ又例へば或る方法を取締手段として用ふる考、例へば指紋鑑定法 (Daktyloskopie) の如きも特許保護を受けぬ。然しながら右の如き精神的効果を促進する物的補助材料を創造した場合に少くも趣を異にする、例へば前述の指紋を固着せしむる方法の如き此の意味で特許保護を受け得ると思ふ。

次に發明は人類の創造物であつて (Menschenschöpfung) 自然の創造物 (Naturschöpfung) ではない云ふことである、云ふ意味は創

造的自然の力に依つて何物かが作出された場合に於て假令之れが我々の發明的作用に依つて動機づけられたとしても其の作出された結果が發明であるのではなくて單に其の作出すべき方法が發明なのである云ふことである。例へば何人かが土壌に或る作用を施して特種の薇薔や菊の花を作つた場合でも發明として特許權の客體たり得るものは其の方法であつて決して斯る方法で作られた花其物ではない。

新たな有機物例へば新たなバクテキヤを作る事に成功した場合に於ても亦同じである。

其の特許せらるるは方法であつて結果ではない、如何にならば斯る結果は、假令我々人類の考に依つて誘導せられたことは云ふても所詮自然の創造物であるからである。有機物は假令我々人類に依つて其の方向に目的が定められたとしてもそれは自然により其の存在を保持して居ることは我々の認めざるを得ぬ事柄である。

化學製品が製品自體として特許せられ得ず單に其の製造に用ひらるる方法のみが特許せらるるのも前述の同一の理由から自ら明かであらう。此等の製造に當りて主たる役目を演ずるものは自然其物であつて我々は只之を促進するに過ぎないのである。

即ち化學製品自體が特許せられざるものも有機物自體が特許せられ得ざるの同一の考方から來て居るのである、だから此の考方は根本的である、決して皮相なる利害の考慮から出發したものではない（一方斯る發明の結果たる製品自體に特許を與へる他の者が同一の製品を他の方法で製造せんことを努力することを妨

ぐる事になり結局文化の發展を阻害する云ふ考慮も決して輕視すべきではないか）。化學工業の進歩は絶えず新たな製法が發明せられ未知の新規なる製品の製造よりも既知の諸製品の新規なる製造法が數限りなく考出さるる事に存するのである。

要之化學製品に就て物の特許を認めざるは如上下の理由に據るべきものならんも前者が其の根本的理由たることは謂ふを俟たぬ（諸國の立法例は必ずしも同一でないが大體に於て右の所論を基礎にした立法例が多數を占めて居る）。

次に發明は所謂自然力發明（Naturkraft-erfindung）たることを要する。新たな組合せは夫自體發明ではない、然しながら何人かが斯る空間的困難に打勝つべき新たな手段を考案した場合に之は發明の存在を否定することは出來ぬが此の場合空間は單に打勝たすべき客體に過ぎないのであつて發明家が作用すべき手段其物ではない。然し一方又空間の利用に依つて新たな力の作用を發揮せしめた場合に於ても發明の存在を見る、その機械の創造は單なる空間的創造ではなくて自然力的創造である。何となれば機械の創造に當りては成程一定の空間が利用せられるが之は一又は二つ以上の自然力の結合せられたものをして一定の作用を爲さしむる爲に補助手段として利用せられたに過ぎぬからである。

右の區別は重要である。之は發明と新案（Gebrauchsmuster）との分かるる處である。從來學者は兩者の區別を種種の點に求めた。通説に認めらるべきものに新案は發明に對し幾分下位のもの重要ならざるものなり故に機

械は決して新案の客體たるものに非ずとの説があるが之は誤である、之に反し發明新案双方の客體たり得るものあり、兩者は各各他を排斥すべき性質のものに非ずとの説もある、が然し斯る區別は結局區別にならぬものと謂はねばならぬ。それよりも重要な區別は新案は單に空間的組合せに關するもので然かも此の空間的組合せが自然力の利用には何等關係なき場合である。故に茲に一の機械が特許せられたのならばそれは其機械に於て表はれて居る自然力の作用に對して特許せられたものと謂ふべきである。而して斯る作用が假令他の空間的補助手段を用ひて達せられた場合であつても何等差支はない。之に反し右の機械に對して單に實用新案權が與へられたに過ぎぬ場合に於ては當該の空間的組合せが夫自體として保護せらるるのであつて當該機械に對する法律上の保護は右以上には及ばない。故に同一の自然力の作用を他の空間的組合せに依つて起すことは何人にも許されて居ることである。

茲に於て容易に起り得べき問題は機械を發明した者がそれに對して特許權を獲得すべきか將又新案權を獲得すべきか云ふことである斯る場合兩者孰れにても好む處の權利を獲得し得べき場合にはいづれを得るかに依りて其の結果の少なからず異なるを見る。新案權は其の權利者に對し只型に就ての保護請求權を認むるのみで其の型の中に支配して居る又は其の型に依りて誘導せられて居る自然力に就ては何等請求權を有さない。之に反し特許權を獲得した者は斯る型に於て展開し且つ斯る型を其の進展に用ひて居る處の全自然力の結合

に對し請求權を獲得することが出来る、從て彼の權利は彼の用ひたる型以外の新たな型であつても苟くも同一の自然力の結合が行はるる以上凡て之に及ぶことになる。

右の如き場合特許權を請求せず實用新案權を以て甘んじたる者は其の保護の程度の薄きを嘆じても罷むを得ない。何となれば彼は特許權なる十分の權利を獲得する方法を選ばずして、不十分なる保護しか受けられぬ様な他の方法を選んだからである。

三

次に發明は一の機能的の結果を誘導するものたる事を要する、特許權は斯る機能的結果を齎すべき手段に關するものである。機能的結果自體は特許せらるることを得ない（例へば土壤を豐穰にする結果を謂ふが如き）。然しながら斯る結果が他の技術的補助手段と結合することによりて何等か新規な目的が達せられ得るならば茲に發明が成立し得る。然し此の意味の結果は結果を看做すべきではなく新規なる結果に對する補助手段を看做すべきである。

機能的結果を招來せしむる目的の爲の手段は機能的の結果の目的が達せられる様に自然力を導くことを可能ならしむる有體物たることもある。

發明の目的は斯る場合に於ても右の有體物其物ではなくて當該有體物に相應した自然力の結合である。蓋し斯る有體物は斯る自然力の結合を實現せしむべき手段に過ぎないからである。只斯の如き有體物を形成するの要は右の種類の自然力が同時的單一性に結合せしめられる云ふ効果のあることである。學者は

斯の場合を所謂物の特許 (Stoffpatent) と稱する。即ち物の特許とは種類の自然力が同時的單一性に迄結合せられた發明に對する特許のことである。

四

次に前述せる組合せに關し其の發明との區別を明かにする。組合せとは一の結果を齎す爲に單に技術的の補助手段を應用することである。之が發明と異なる所は單に既知の補助手段を取扱ふのみで新たな結合關係を作出することでない點である。勿論組合せと雖も一定の知識と一定の技術上の技能を前提とするが通常の技術家の程度を越えざるものであつて從つて發明とはならない。然しながら右の程度を超えた場合には當然發明的構想が存在する。如何にならば斯る結果は當然新規なる結合的要素の介入に依つて初めて目的が達せられるからである。要之組合せと發明とを區別することは困難な問題に屬するが所謂組合せの程度を少しでも超えたものは既に發明である。決して既知の範圍を著しく越ゆることを必要とせない。少くも組合せと云ふ名稱に捉はれてはならない。

猶組合せの特質を説明せんが爲には所謂轉置 (Ubertagung) 及置換 (Ersetzung) を述べる必要がある。轉置とは一定の方式を一の範圍より他の範圍に採用することであり置換とは或る手段の代りに之と同價値を有する手段を用ふることである。此の兩者共勿論全く無知識では出来ぬことであるが要するに現存の技術上の可能性に根據して個個の場合に該當する様にしさえすれば出来ることである原則として發明ではないが之にても從來の技術の範圍

を超えて今迄不可能であつた新たな結果を達し乃至は障害に打勝つことが出来た場合には之亦發明と稱し得べきであらう。尙力学上の法則に従つて直線を曲線に變へたり。垂直の方向の運動を水平の方向の運動に變へたりする所謂技術上の顛倒 (technische Umkehrung) の場合又は化学上の法則に従つて A なる物質と B なる物質との同價値なるを認識し A の代りに B を使用し其の結果を同一ならしむるが如き組合せと同視すべきものであらう。斯くの如くして嘗ては發明的作用と認められて居つた多數の方式が技術上の組合せの範圍に入るることとなり之が爲發明の範圍が縮小せられた事は事實である。

五

以上を以て大體發明の概念を述べた積りである。然らば斯る發明は何を目的とするか、之に就て猶少しく説明し一層發明の本質を明かにし度い。通常發明は所謂問題の解決 (Problemlösung) を以て目的とするを謂はれて居る。問題は發明の目的が達せらるることに依りて招來せられるべき處の想像上の状態の事である。斯る問題が解決せらるるには勿論難易様様であるが之は此の方面の技術的知識の發達の遲速に依ることである。時には問題の提供 (Die Stellung des Problems) 即解決と稱し得る程解決の容易な場合がある。之は一度問題さへ提供せられれば之が解決の手段は既知の技術的知識からして當然考へ得ること云ふ場合である。故に好く唱へらるるが如く問題の提供自體が發明であるとか或は問題の提供自體は決して發明でないとか云ふ論は正當でない。若しも當該問題解決の手段が問題

自體から生じ得る程度に之に關する技術的知識が進歩して居る場合であるならば問題の提供自體が發明であるとも謂ひ得る。一九〇五年十月十八日獨逸大審院判決にも「一度問題が提供せられれば其の解決法は容易である場合に於ても當該發明の特許附與性を阻害するものにあらざる」旨を述べて居る。之に反し假令問題が提供せられても之が解決の爲には猶一段の發明的考慮が拂はねばならぬ場合に於ては問題の提供自體を以て發明なりとは稱し難い。兎に角問題の提供と云ふことは發明でないにしても決して無價値の事ではない、之に依つて當該發明に對する指針が與へられるからである。如何なる方面に於て發明がなされなければならぬかが教へられるからである。然し茲に注意せねばならぬことは斯る價値ある問題の提供にありては其の提供せらるる問題が必ず發明なる結果に導き得る性質のものでなければならぬ。世に今日の科學的見地からは到底不可能なる事柄を可能なりと信じ自らも苦しみ世人をも誤らしむるものがあるが如きは之れ誤つたる問題提供の弊害である。

次に説明すべきは斯の如くして提供せられた問題の解決と謂ふことである。問題の解決とは當該問題が指示する處の想像的狀態を實現せしむべき手段を示すことである。斯る解決的構想は必ずしも常に容易なりとは云へないが孰れにしても若干の要素を結合し之が協同作用に依つて問題の必要とする處のものを發現せしめねばならぬ。此等の要素の中には既に知られて居るものもあれば新たに發明せらるべきものもある。故に分解の結果は凡て

の發明が結局既知の要素の上に立ち前述の所謂組合せに初まつて居ることが解るのである。斯の如く解決的構想を具體的に實行する爲に必要な構想を實行構想 (Durchführungsgedanken) と稱する。即ち一の解決的構想は數段の實行構想に依つて進展させられ遂には既知の組合せの基礎に達するに至るので此の過程を所謂系統的列序 (genealogische Reihenfolge) と稱する。而して解決的構想と實行構想との關係は前者のみに對して後者の數種があり其の各種が前述の如く數段に分れて居るから右の種類右の數の異なるに従ひ各別の發明が成立し得るわけであつて此等は孰れも同一の解決的構想に基くもので相關聯して居り其の價値にも大小が區別せられる右の如き同一の解決的構想を達すべき數多の實行構想の事を同等物 (Äquivalent, Gleichwert) と名づけて居る之は所謂法律的同等物 (die juristische Gleichwertung) の意であつてかの各自が獨立の發明と認められぬ技術的同等物 (die technische Gleichwertung) とは區別すべきである。

以上甚だ簡略ながら述べた問題の解決と云ふことは所謂技術上の結果 (Das technische Ergebnis) である。而して斯る技術上の結果を招來せしめてそれが人生の何の役に立つか云ふもつと廣い意味の發明の目的論に就て一言し之を結論とする。所謂發明の經濟的結果 (Das wirtschaftliche Ergebnis) と稱せらるるものである。

凡そ眞の發明である爲には、それは人類の慾望詳言すれば社會的慾望 (gesellschaftliche

(第一四頁へ續く)

學
內
報

ベルギー大使來學

東京駐在ベルギー大使バッソンビエール氏は書記官同伴にて昨年十一月十一日來阪本學千里山學舎に於て一場の講演を試みた。大使は當日午前九時大阪驛着、宮島教授、田川秘書の出迎を受けて大阪ホテルに入り少憩の後午前十時天神橋筋六丁目より特別電車にて千里山に向ひ大學前に下車、運動場より本學に入りスタンドに集合せる學生一同記念撮影をなし一旦本館貴賓室に入る。少憩後學生音樂部のベルギー國歌演奏裡に講堂に入り學生の能樂「八島」を見物、終つて宮島教授は壇上に立ち佛語にて歡迎の辭を述べた。之に對し大使は河盛講師の通譯に依り約三十分に互つて一場の講演を試みた。後劍道部及び柔道部選手の仕合、眞劍白刃取り等の妙技を見、更に角力部道場に於て同部選手の猛練習を參觀、校庭に記念の植樹をなして正午滿面に感激の笑を湛えながら本學を辭去した。

因に大使は同日大阪俱樂部にて中食を探りたる後本學教授數氏の案内にて常盤座、中座等を見物、夕刻より別項記載の白國美術講演會に臨んだ。尙右に關し當日種種便宜を圖られた新京阪鐵道株式會社に對しここに厚く感謝の意を表する。

白國美術講演會

關西日白協會、大阪商業會議所、大阪市並びに本學の主催にかかる白國美術講演會は大阪

朝日新聞援護の下に昨年十一月十一日午後七時から市内中之島朝日會館に於て開催せられた。定刻ベルギー大使バツソンピエール氏は大阪朝日新聞社専務取締役下村宏氏の紹介にて一場の挨拶を述べ、つづいてベルギー大使



使大一ギルペるすを樹植の念記に庭學

宮島專務理事辭任

本學事務理事宮島綱男氏は、曩に一身上の都合にて辭任を申出でられたが、本學では昨年十一月三十日役員會を開いて同氏の辭任を承認した。超えて十二月三十日垂水理事は本學を代表して宮島氏を訪問し、表彰狀竝に金若干圓を贈呈して深く同氏が過去の功勞を謝した。

木下幹事辭任

本學幹事木下孫一氏は今回一身上の都合に依り其職を辭せられた。これに對し本學では感謝狀を金若干圓を贈り、同氏が過去十數年に亙る功勞を慰した。

垂水理事の専

宮島、木下兩氏の辭任に依り缺員となつた本學事務理事並びに幹事の後任決定まで當分の間理事垂水善太郎氏が専務理事を補佐して學務を執掌することに昨年十一月三十日の役員會に於て決定した。

教授講師辭任

今般左の諸教授、講師は一身上の都合に依つて辭任せられた。

同	同	同	同	授
松	櫻	佐	宮	
田	井	々	島	
			綱	
一氏	匡氏	穆氏	男氏	

宮島・木下兩氏送別會

本學職員有志は舊臘十八日午後五時から市内堂島魚岩樓に宮島綱男、木下孫一兩氏を招じて送別の宴を張つた。席上幹事長野村吉藏氏是一同を代表して挨拶を述べ、宮島氏これに對して答ふるまゝころあり午後九時名残を惜しんで散會した。

臨時協議員會開催

舊臘七日午後四時より大阪ホテルに於て財團法人關西大學臨時協議員會開催、専務理事後任問題その他本學の現在並びに將來に關する諸問題について種種協議した。

學部第二學期授業終了

本學學部各學年共舊臘三日を以て昭和二年度第二學期授業を終了した。

大學豫科第二學期授業終了

本學大學豫科各學年共舊臘四日を以て昭和二年度第二學期授業を終了した。

專門部第二學期授業終了

本學專門部各學科各學年共舊臘四日を以て昭和二年度第二學期授業を終了した。

專任教員會開催

舊臘二十三日午後四時から市内大阪俱樂部に於て本學專任教員會を開き、理事、監事等出席の上新學期よりの授業に關し種種懇談を重ねた。

通常協議員會開催

舊臘二十七日午後四時から大阪ホテルに於て財團法人關西大學通常協議員會を開催し左の事項を審議決定した。

一大正十五年度大學及び附屬商業學校歳入出決算

一昭和二年度大學及び附屬商業學校歳入出更正追加豫算

一昭和三年度大學及び附屬商業學校歳入出豫算

一前事務理事宮島綱男氏に表彰狀並に慰勞金増呈の件

右終つて後理事の補缺選舉を行つたが協議員増山忠次氏當選、同氏は就任を承諾せられた。

新事務理事決定

昨年十二月二十九日午後五時より大阪俱樂部に於て本學役員會を開き互選の結果増山忠次氏が新しく事務理事に就任せられることになった。

協議員菅沼豐次郎氏の訃

本學協議員菅沼豐次郎氏はかねて自宅に於て病氣療養中のところ昨年十二月二十七日遂に逝去せられた。葬儀は超えて三十日午後二時から阿倍野祭場に於て基督教式を以て営まれたが在阪知名の士も多數會葬した。因に氏は明治元年に生れ東京帝國大學卒業後明治三十年九月本學講師に就任、明治三十八年十二月には社團法人關西大學の社員となり大正十一年財團法人に組織變更後は協議員として種種本學の爲めに盡された。茲に謹んで哀悼の意を表する。

講師瀧村斐男氏の訃

本學に於て美學及び藝術各論を擔當せられてゐた講師瀧村斐男氏は舊臘二十日午後八時肺炎にて逝去せられた。享年五十、氏は明治三十六年東大文科哲學科卒業以來我が學界、教育會に盡されたところ甚だ大である。謹んで哀悼の意を表する。

講師入江眞太郎氏轉居

本學講師入江眞太郎氏は今般左記に轉居せられた。

兵庫縣武庫郡御影町字城の前
一四五四

附屬關西中種商業學校彙報

第二學期授業終了 昭和二年度第二學期授業は舊臘九日を以て終了した。

第二學期試験施行 舊臘十二日より十七日まで六日間に亘り第二學期學期試験を施行した。

學友會誌發行 豫ねて教諭中村秀光氏指導の下に文藝部委員の手に依つて編輯中であつた本校學友會誌第十四號(昭和二年度第二輯)は昨年末發行せられた。

通信臨時事務員推薦 大阪中央郵便局よりの依頼に依り第三、四、五學年生徒中より約三十名を年末年始通信臨時事務員に推薦した。

附屬第二商業學校彙報

第一、二學年修學旅行 本校第一、二學年生約三百名は昨年十一月三日午前八時湊町停車場に集合、松本生徒監、神保教諭外教諭數氏引率の下に笠置、奈良方面へ修學旅行を試み、午後六時三十分歸阪無事解散した。

盛會裡に閉會した。

學友會誌發行 本校學友會誌第四號は教諭四辻詮氏指導の下に文藝部委員の手に依つて編輯せられ昨年末發行せられた。

第二學期授業終了 昭和二年度第二學期授業は舊臘八日を以て終了した。

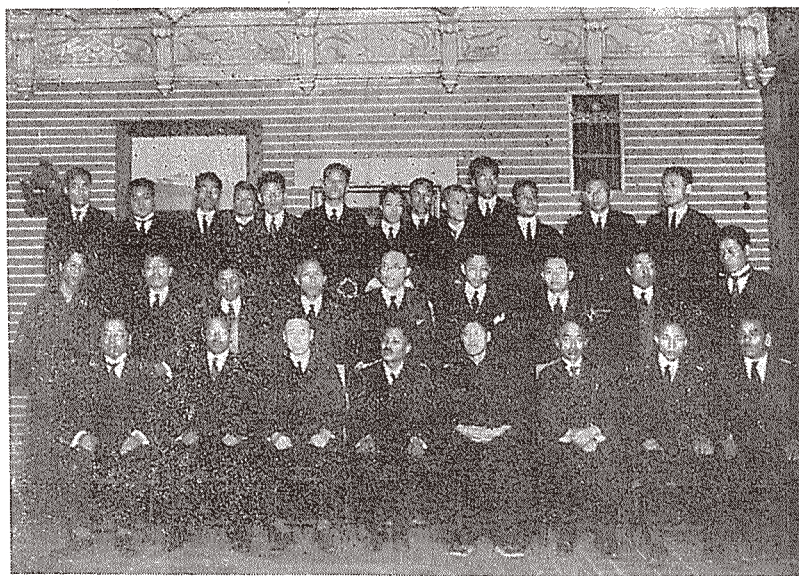
第二學期試験施行 舊臘九日より同十六日に亘り第二學期學期試験を施行した。

木下主事辭任 本校創立以來主事の職に在つて教務に執掌せられた木下孫一氏は這般一身上の都合により其職を辭されることとなり、當分の間關西大學理事垂水善太郎氏が代つて校長事務を取扱はれることとなつた。

木下主事送別會 本校職員親睦會では舊臘二十一日午後五時から大阪ビルディング食堂に於て例會を兼ね宮島綱男・木下孫一兩氏の送別會を催ふした。主賓を始めまして會する者約三十名一同記念の撮影を終へたる後宴を開き神保幹事の挨拶、宮島・木下兩氏の答辭あり午後九時散會した。

附屬商業學校職員新年宴會

本年一月九日午後六時から市内大阪ビルディング八階食堂に於て附屬關西中種商業學校並に第二商業學校職員の合同新年宴會を開いた出席者約五十名定刻一同食卓につくや垂水善太郎氏は立つてこの度第二商業學校主事に就任したるについての挨拶をなし、小泉幸治氏一同を代表してこれに對ふるところあり、一同歡談を交へて午後九時散會した。



會別送氏兩下木・島宮の員職教校學業商二第

校友の面影

金貨莫大株
株式會社事務取
締役兼支配人
後藤田德太郎氏
大正三年商業學科出身

氏は明治二十二年二月德島縣麻植郡幸村に生れ、大正三年私立關西大學大學部商業學科を卒業された。大正七年五月金貨莫大株株式會社創立に際し同社に入り、莫大小製造販賣に従ひ、現に同社事務取締役並びに支配人の要職を兼ね、同社經營の責任者として内外に重きを爲してゐられる。

筆者が氏を訪れたのは舊臘歲晚忽忙の折柄であつたが氏は快よく招じて、談數刻に及び一見舊知の如き親愛の態度を以て遇せられたことは特に恐縮に覺えた所であつた。



後藤田德太郎氏

氏は内に藏する遠大の霸氣と烈烈たる火炎の如き意氣とそれに包攝さるる多年の廣圖を永年試磨琢彫に成りし修養と、今や圓滿溫柔の域に達せんとする心境と對者を魅了せずしては止まない溫容とに被ひ盡してゐられる風格の持主である。談笑の間に迫る氏の霸氣と廣圖と意氣とは何人の胸奥にも徹するであらう、然し、それは最早や凌凌たる圭角と、峻烈なる鬼氣の覗がひ難いものである。一言一句に誠意の溢れを見る。氏は過去に就て語られたこと極めて少く、寧ろ

來るべき將來に就て一の實際家として腐心焦慮し居られる狀が窺はれた。學究の論に聽き、實際家の評に考へ、理想を理想として單なる抽象に終らしめず、常に現實との距たりに配心し、一步一步是が實現に努力さるる點は氏の年來踏み來られし所であつた。氏の如き實際家より、新らしき社會學說や經濟論に就き意見を聴くことは筆者の感に堪えざる所であつた。氏は母校の圓滿なる發展を切に希望してゐるに語られ、且つ氏が信ぜる所の人生觀

に就て最も多く語られた。その要約を氏に請ひ得たものを左に掲げて氏の風格の一端を傳へたい。

「世人往往、克己精勵の結果、地位權力を得るに至れば、即ち心驕り、權力を亂用し獨斷專行に過ぎ、遂には諸方面の諒解を缺ぐに至り、千仞の功を一簣に缺ぐの悲に陥るものあり、誠に心すべき事なり。恭謙己れを持するは吾人の美德にして、謙は積極、向上を意味し、信を得る所以なり、驕

慢は行き詰り、消極を意味し、信を得る所以にあらず、世上信なくして何事をかなし得むや、本春財界に於ける未曾有の大混亂の如きも唯信の動搖に過ぎずは識者の言にして、殊に實業界に志すものの須臾も忘るべからざる事なりと考ふ。」

氏に接して得た所は甚だ多い、筆徒らに粗にして氏の風格を傷けざるやを憂ふるものである、當今一つ記して傳へたいは、氏の居座極めて實實簡疎なることである。氏の所信を聽き更に氏の行住座臥に觀るものは一層敬愛の念を禁じ得ないことを信ずる。

思ふに信の因つて起る所以は百の能辯より一の實行に存せんか、理想を樹て、計畫を企て内容以上に呼號する人士は求むるに難からざる所であるが、所信を枉けず、身を以て實行の道に就く有徳の士は實に寥寥たるものである。

校友彙報

校友會大阪支部秋季懇親會

校友會大阪支部にては昭和二年度秋季懇親會を舊臘十二月四日午後四時より寶塚寶山閣に於いて催した。種種の都合に依り會期の遅延を來したる爲め、時恰も屋外は多少の寒冷を覺ゆる頃となり屋外の拂撒散策は會員各自の任意とし、午後四時より直ちに懇親會に移つた。先づ砂川支部長の挨拶あり、出席會員約九十名互に會宴に入り歡を盡すところがあつた。會宴中、母校の現狀に關する質問も三三五五發せられ、砂川支部長は立つて同氏の意見及び、母校に關して同氏の知れる所を基礎として説明さるる所があつた。

尚、今回は幹事の任期満了に就き、支部長よりは是が改選の事を計り、先づ支部長並に副支部長は満場一致をもつて重任と議決し、その他の役員は約半数を改選することを大體の骨子として全部支部長並びに副支部長に一任することとなつた。右により選任された役員並に當日出席會員は左記の諸氏であつた。

出席者 糸島實太郎、岩尾廉、池島源之丞、飯島善之助、飯田清藏、萩原敏隆、畠田繁太郎、橋本鹿藏、原田鹿太郎、花井壽造、西本寛一、富田貞男、大崎萬太郎、岡本義男、岡本重治、笈西大次郎、小倉重太郎、和田義爲、和田相也、川浪辰次郎、神田榮吉、神宅實壽恵、桂忠雄、金井正夫、吉村種藏、吉積文平、武田貞之助、垂水善太郎、高村久之助、武村英男、高松林之助、但馬直吉、瀧本貢、田川七郎、辰巳經世、丹二良、田中藤作、辻村政治、中村鄭次郎、中村秀光、内藤正剛、中

計理士登録の校友諸氏

本學校友中左記の諸氏は、舊臘十二月二十七日附を以て商工省計理士登録簿に登録せられた。(此項校友彙報)
江村至身氏 (大二法)
谷岡登氏 (大二三法)
守屋伯市氏 (明四一法)

江濱、中村公男、室石常秀、村尾靜明、野島藤次郎、野村吉藏、野口政次郎、黒田莊次郎、山口房五郎、安川勝太郎、飯下吟次郎、山根龍藏、山田一太郎、山本彌一郎、増山忠次、松崎義盛、深川重義、兒玉善吉、後藤田德太郎、近藤友房、江草次郎、榎原治郎、佐藤増吉、喜多村桂一郎、菊池金次郎、木戸卯之助、清成五六郎、木下孫一、湯原慶太郎、宮本政藏、道端常治郎、三島律夫、篠田栗夫、霜村盛郷、志野覺治郎、新町徳之、廣瀬徳藏、日向幸藏、目代誠吉、關豊馬、砂川雄峻、須々木庄平、松川茂三、荒川庄次郎、木村順次郎、宮本秀夫、神保敏男、下島光、植田寛治、土橋四三、松本茂三郎、小林義三、松本芳三郎、柳延胤(順序不同)

役員 支部長 砂川雄峻 副支部長 内藤正剛 幹事 増山忠次、和田相也、須々木庄平、辻村政治、野口政二郎、湯原慶太郎、近藤友房、丹二郎、本田武藏(以上重任)、飯下吟次郎、武村英男、日向幸藏、岡本重治、橋本鹿藏、池島源之丞(以上新任)

校友會福岡支部秋季例會

關西大學校友會福岡支部昭和二年度秋季例會は昨十一月二十三日福岡市東中洲巴に於て開催された。午後六時より開會、池田重吉氏の會務の報告あり、會宴に移り、中洲の美妓酒間を幹旋し、會員各自、燒芋時代の談に花を咲かせ、歡笑談裡に散會したのは午後十時であつた。(池田重吉氏報)

校友動靜

河面一三氏(大一二商) 米國留學中であつた氏は去る八月末歐洲經由歸朝九月下旬より横濱火災海上保險會社東京支店に勤務されることになった。

瀬戸健助氏(昭二專經) 昨夏より野村證券株式會社に入社調査課に於て勤務中。

中西恒三氏(大一二專經) 小島新聞の編輯に従事し、近來小島に關する諸種の著述に從はれ居る由。

遠藤正一郎氏(大一二專經) 從來勤務中の範田商店保熱板製造株式會社東京出張所を退かれた。

織田佐代治氏(大一二大法) 過般玉造警察署保安係主任に榮轉された。

佐竹 要氏(大一二大法) 過般警部補に任官玉造警察署勤務。

佐津間秋夫氏(大一二三經) 過般國華生命保險大阪支部天満出張所次長に就任された。

杉田英一氏(昭二專商) 過般京都市下京區松原通大宮西入第一製藥株式會社京都分工場へ轉勤された。

北岡醇平氏(大一二專經) 從來朝鮮鐵道株式會社全南線潭陽驛長在任中の所過般同社咸興出張所運輸係に轉勤せられた。

安田日出男氏(大一二專經) 過般大阪高商研究科卒業不動貯金銀行大阪支店に勤務さるることになった。

本田捨松氏(大一二三法) 過般校友池谷龜太郎氏夫妻の媒酌により東京、神宮大禮會館にて華燭の典をあげられた。

小西直意氏(大一二三經) 昭和二年十二月三日、大阪市東區玉堀町五七二能森榮太郎氏令妹敏子嬢と華燭の典を舉げられた。

校友住所移動

河面三二氏(大一二商) 東京市牛込區早稲田鶴卷町三七中村方
瀬戸健助(昭二專經) 堺市大湊北町一番地

中西恒三(大一二專經) 大阪府下濱寺ヒヤリ山南區鍛冶屋町六二

眞木 新(大一二大商) 名古屋市東區筒井町一ノ四

佐津間秋夫(大一二三經) 北河内郡守口町寺内一四二

後藤種吉(昭四四法) 東區清水谷東ノ町四三三

曾根茂平(昭二專商) 愛媛縣喜多郡白瀧村加屋甲五六七

廣瀬 勇(昭二專商) 此花區島屋町三五六ノ一歲安方

荒武善助(大一二專商) 神戸市大手中ノ所二七ノ二

上野義明(大四專法) 北區中野町二丁目一八

清水正三(昭二專商) 京都市上京區竹屋町狹屋町角

大場筆雄(昭二專商) 東京市麻布區霞八山口義一方

増澤 勝(昭二專商) 福岡縣八幡市祇園町四丁目紙谷一雄方

松尾五六(昭二專法) 東成區今福町一七七

花井壽造(大九法) 東區北新町二丁目二

宮本勇男(大一二專法) 小樽市相生町一丁目一七

田淵正昭(大一二專法) 神戸市東區池田町一ノ四一

松島武三郎(大一二經) 兵庫縣武庫郡住吉村字唐松七八四

小川言吾(大一二三法) 三島郡千里村字片山五二

廣田良三郎(大一二專經) 兵庫縣川邊郡園田村上阪部七九

吉田敬治(大一二專商) 京都府南山町一丁目二一

有田幸三(昭四四經) 東淀川區中津通五丁目三二

羽賀一郎(大一二專商) 港區三軒家濱通二丁目四三梅野方

松原精一(大一二專法) 西區南堀江三番丁六地

加來定義(大一二三商) 支那安東縣江岸通一丁目加來木材公司

佐伯辰巳(大一二一商) 神戸市板宿前池町二丁目一ノ一七

大森新耶(大一二五經) 港區壽町一丁目六番地

森岡保喜(昭三一法) 東京市下谷區區役所

平野七郎(大一二一法) 神奈川縣川崎市大島淺野セメント會社八號社宅

松岡繁晴(大一二專商) 西區本町通二丁目四七

奥村乙吉(大一二四法) 神戸市東町一二二共榮土地株式會社內

堅田 博(大一二二商) 京城市和泉町一朝鮮精米株式會社內

橋口勳夫(大一二六法) 北區堂島中一ノ八

吉田正幸(大一二一商) 三島郡吹田町堀奥一三五

中内秀治(大一二一法) 兵庫縣明石郡大久保村森田

三瀬光義(大一二六商) 住吉區湯ノ里三三〇ノ二

金森彰三(大一二二商) 支那天津法界二號路國際運輸會社

山田 延藏(天二四專商) 名古屋市中區新柳町五丁目一 大阪海上火災保險株式會社出張所

河内 透(天二五專法) 此花區春日出北港住宅第二四ノ一

松本 萬(天一四法) 北區室島ビルディング二階日本住宅株式會社

北本 彌太郎(昭二專法) 東成區上辻町六番地

山口 榮次郎(天一三商) 西區阿波堀通二丁目合資會社朝日鐵金所内

鍵谷 彌一郎(天九商) 東成區鶴橋天王寺町五六〇五

校友改姓名

(舊) (新)

大五法 小林 義三 小林 康寛

校友逝去

昭和二年十一月

福岡縣嘉穂郡二瀬村字片島

久米 正則氏

大正十一年大學部政治學科卒業

昭和二年十一月

山口縣徳山町代々小路

辯護士 頓宮 悟一 郎氏

推薦 校友

昭和二年十二月六日

名古屋市中區武平町四丁目一六

辯護士 大原 敬藏氏

明治二十三年法律學科卒業

昭和二年十一月二十七日

大阪府三島郡高槻町

小串 榮藏氏

明治三十年法律學科卒業

昭和二年十二月十七日

大阪市東區農人橋二丁目

濱口 光治 郎氏

大正十四年大學部法律學科卒業

右訃音に接し謹んで弔意を表す

千里山學報維持費受領報告

(到着順)

金貳圓也	大六法	酒本 憲一氏
金貳圓也	昭二大商	小松 金重氏
金貳圓也	大五專法	二谷 宇市氏
金貳圓也	大三專經	松本 芳太郎氏
金參圓也	廣川	正氏
金參圓也	昭二大經	阪東 政一氏
金參圓也	大五專法	清間 壽太郎氏
金貳圓也	大四專法	中村 國夫氏
金貳圓也	大二〇專商	近藤 淳一郎氏
金貳圓也	推	前田 榮一氏
金參圓也	大五專法	高田 瑞穂氏
金參圓也	明四四專法	野々村 弘氏
金貳圓也	明三一法	高鳥 巧氏
金貳圓也	大六法	吉川 常三郎氏
金五圓也	大四大商	河野 克巳氏
金貳圓也	明三一法	垣内 兼吉氏
金參圓也	大四法	木下 林三郎氏
金參圓也	大五專商	武田 熊太郎氏

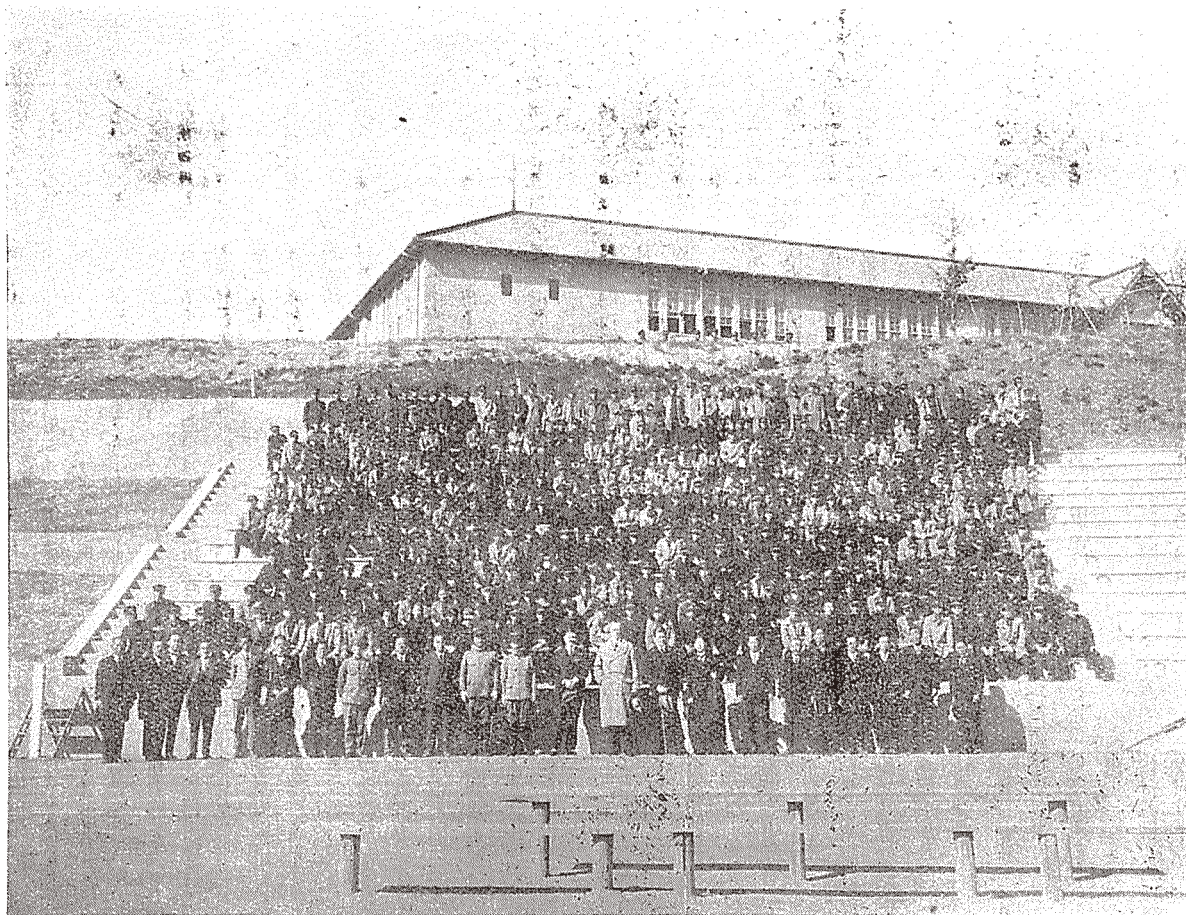
校友諸氏に告ぐ

昭和二年度關西大學校友會會員名簿は出來致し候に付御入用の方は實費金貳拾五錢相添へ左記宛て御申込被下度候

昭和三年一月

大阪市此花區上福島

關西大學校友會名簿係



影撮念記學來使大一ギルベ

千里山野球部報

對立命館大學野球戰——去る十一月九日午後二時三十分より寢屋川球場にて開戰、球審淺野、壘審早川、七對零の成績で本學大勝した。

[illegible]

對同志社大學野球戰——十一月十八日午後二時半より同大先攻で寢屋川球場に於て開始、審判梅田、鶴田兩氏、前半は安打數本學二、同大一ミ豫期の如く本田、副島の對立ミなつたが、同大は第一回遊撃、一壘の二失を續け更に酒井の一、二壘間適時安打を右翼手トシネルにして忽ち本學三點を得、後半に入つて俄然敵の意氣衰へ、副島投手奪はず、一方本學は第六回一アウト後阪井中右間直球三壘打を皮切りに川西の安打ミ二敵失で三點を加へ、七回本田の中右間三壘打八回川西、蔭山の安打で各一點を増し八對零で大勝した。

【關】
山村井田西木田西勢田
隆川阪本小三森川能豐

打35 安7 盜1 振6 球1 失0

打27 安2 盜0 振12 球2 失8

【同】杉
植生
長谷川
沖
山
太
長谷川
副

$$\begin{array}{l} \text{關} \{ 3 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 3 \ 1 \ 1 \ 0 = 8 \\ \text{同} \{ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 = 0 \end{array}$$

(三壘打)阪井、本田(二壘打)太田(犠打)關？

對寶塚協會野球戰——本學對寶塚協會野球戰は十一月十九日午後二時五十五分より寶塚球場に於て舉行、球審鶴田、壘審横澤、本學先攻にて開始、寶塚は最初から本田投手に悩まされ孫以下七者連續三振を喫し六回一アウト後尾崎四球野原の二壘ゴロでフオースアウトされたが野原はディレードスチールミ捕手の二壘高投に三進大井手の遊撃ゴロ後逸に生還、八回山口遊撃内野安打し尾崎の三壘バンド一壘惡投に二、三壘により野原の三壘ゴロで山口本壘を衝いて刺されたが大井手四球後孫の二壘ゴロで尾崎還る、本學は二、四回を除く各回走者を出し八回川西中堅安打野手失で二進豊田に送られ蔭山の右翼犠牲フライで一點を挙げ九回にも二走者を出したが惜しくも得點なく二對一で寶塚に勝を護つた。閉戰四時二十五分。

【關】
2 蔭 山
5 川 村
9 阪 井
1 本 田
8 小 西
PR 小 田
6 三 木
H 寺 內
3 森 田
7 川 西
4 豐 田

打31	安6	盜0	振6	球1	失5
打28	安1	盜1	振14	球2	失2

【寶】
6野
5大井
9孫
8丸
2池
3清
4村
1山
7尾

$$\begin{array}{l} \text{關} \{ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 1 \ 0 = 1 \\ \text{寶} \{ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 0 \ 1 \ 0 \ 1 \ A = 2 \end{array}$$

對大每野球戰——本學對大每第三回野球戰は十一月二十五日甲子園で舉行された。球審濱崎壘審梶上本學先攻。

左のスコアを以て四對零の成績で大毎の勝
 となつた。その爲結局一勝一敗の成績となり
 二十九日に決勝戦を舉行することとなつた。

打得安機盜振球失

計	3森田	6三木	4豊田	PH寺内	5川村	1本田	8小西	9阪井	7川西	2陸山
29	2	2	4	1	2	4	3	4	4	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	2	1	3	1	1	0	2	1	1	0
4	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1
1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【每】打得安，擡盜振球失。

(三壘打)湯淺(ボーケ)本田(逸球)陸山2

【關】			【毎】			
安	得	敵失	得	安	敵失	回数
1	0	0	0	0	0	一
0	0	0	1	1	0	二
0	0	0	0	0	0	三
0	0	0	0	0	0	四
2	0	0	0	0	0	五
0	0	1	2	2	2	六
0	0	0	0	0	0	七
0	0	0	1	2	0	八
0	0	0	0	0	0	九
2	0	1	4	5	4	計

對大每決勝戰——十一月二十九日午後二時三十分

四分開戦、審判原田、尾崎兩氏、本學先攻第一回本學蔭山右前直球安打し三木送つたが後援なし、大毎菅井遊撃頭上高くフライし、強風に球道曲つて三木マツし夫知の投手バントを本田二壘に高投し中堅手又逸して後壁前に轉轉する間に兩者得點ニアウト後湯淺二壘左内野安打しスチールにアウト、二回本學一アウト後川西投觸安打したのみ、四回本田左翼右深く大フライしたが大門好捕ニアウト後川西遊撃越テキサススチールしたが森田投手ゴロ、太每一アウト後湯淺二壘右内野安打中川右前安打に續き大門も右前直球安打し湯淺を一舉本壘に迎へ、内海また二壘バックを掠めて安打し、中川、大門も還る（小野投手フライを本田捕へたがこの時突指してブレートを森田に譲る）内海スチール菅井四球に出たが天知捕手フアウルフライ、第六回本學一アウト後本田四球小西の緩ゴロは一壘の左を縫ふて轉轉する時投出したバットに渡邊眩惑し安打なる間に本田三進し、小西スチールし川西の一壘ゴロで本田得點、第七回本學豊田四球三木の二壘ゴロで、二、三壘によつたが阪井三振、大每一アウト後渡邊中前安打、湯淺左翼右安打に出たが前走者をフォースアウト、第九回本學二アウト後川村四球に出たのみ、五對一で敗れた。四時十一分閉戦。

【關】打點安犧盜振球失

7	8	13	9	6	2
川	小	本	阪	三	陸
西	西	田	井	木	山
4	3	3	4	2	3
0	0	1	0	0	0
2	1	0	0	0	2
0	0	0	0	1	0
1	1	0	0	0	0
0	2	0	3	0	0
0	0	1	0	1	2
0	1	1	0	1	0

13 森田	4	0	0	0	0	0	0	0	0
4 豐田	3	0	0	0	0	0	0	0	0
5 川村	3	0	0	0	0	0	0	0	0
計	29	1	5	1	2	6	6	3	0

【毎】打點 安 犠 盗 振 球 失

8 菅井	3	1	0	0	0	0	0	0	0
2 天知	3	1	0	0	0	0	0	0	0
6 谷澤	4	0	0	0	0	0	0	0	0
3 渡邊	4	0	0	0	0	0	0	0	0
1 湯淺	4	1	4	0	0	0	0	0	0
9 中川	4	1	1	0	0	0	0	0	0
7 大門	4	1	2	0	0	0	0	0	0
5 内海	4	0	2	0	0	1	0	0	0
4 小野	4	0	1	0	1	0	0	0	0
計	34	5	11	2	1	4	1	0	0

(併殺)大毎1

回数	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
安	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
得	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5
敵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【毎】打點 安 犠 盗 振 球 失

對ブレース野球戦——本學對ブレース野球戦は十二月十八日午後一時五十分甲子園球場で舉行、審判松本(球)小柴(壘)、七對二にてブ軍に勝を護つた。

【關】打點 安 犠 盗 振 球 失

2 陸山	3	0	1	1	0	1	0	1	1
3 小田	3	0	0	0	0	0	2	0	0
9 阪井	3	0	0	0	0	1	0	0	0
1 本田	3	0	0	0	0	2	1	0	0
6 三木	3	0	0	0	0	1	1	0	0
7 川西	3	0	0	0	0	0	0	0	0
5 川村	2	1	0	0	0	0	0	0	0

4 淺野	2	1	0	1	0	0	0	0	0
PH 豐田	1	0	0	0	0	0	0	0	0
8 小西	2	0	0	0	0	0	0	0	0
計	25	2	5	1	2	7	5	3	0

【ア】打點 安 犠 盗 振 球 失

9 錢村	2	0	0	0	0	0	0	0	0
3 梅田	4	1	3	0	0	0	0	0	0
6 谷澤	4	0	1	0	0	0	0	0	0
5 湯淺	4	1	2	0	0	0	0	0	0
1 渡邊	3	2	2	1	1	0	0	0	0
8 中川	2	0	1	1	1	0	0	0	0
2 天知	3	1	1	0	0	0	0	0	0
7 大門	4	1	2	0	0	0	0	0	0
4 横澤	2	1	0	1	2	0	0	0	0
計	28	7	11	4	5	3	4	1	0

(併殺)ア軍1關大2(交代)七回湯淺投手となる

回数	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
安	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
敵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

福島野球部報

對關西甲種商業野球戦——昨年十一月八日午後三時より千里山球場にて福島學舎野球部對關西甲種商業野球戦を舉行した。結果四對一にて關中の勝となった。

柔道部報

千里山柔道部では昨年六月三高に大勝し、九月に同志社大學、大阪醫科大學、大阪高等學校、大阪高等工業學校、大阪高等商業學校、神戸高等商業學校等を破つて、關西に於ける

常勝軍の譽をほしいままにしたが、更に十月下旬、同部の猛者十名は三日間に亘つて中京遠征を試み、愛知醫科大學には四將以上居残つて勝ち、名古屋高等商業學校には三將以上居残つて勝ち、又名古屋高等工業學校には四將以上半数を残して大勝した。

千里山相撲部報

第九回全國學生相撲大會——毎年恒例の堺大濱に於ける大毎主催全國學生相撲大會は昨年十月十二日より開始された。本學相撲部よりは岩佐、原、西村、村上、山口の五君出場した。この日全國各地の強剛手ぐすねを引いて大濱原頭に巨軀を現はすもの三十一校、本學選手も必勝の意氣物凄く榮ある傳統を穢さじ、日頃練磨の賜である快腕を揮つてこの戦場に臨んだ状は壯且つ勇、見るものをして頗なきを覚えしむる計りであつた。

第一回戦に日本齒科醫專組んで見事敵をはふり、西村君敵の佐藤君に一點を與へた爲め四點を得、意氣頓に昂る、第二回戦には高野山大學組み一舉にして零敗せしめ、奮はぬ大阪方の爲に萬丈の氣を吐いた。第三回戦には東都の強雄早稲田大學を向ふに廻り奮退の勢を以て肉迫し、全勝の鼻つ端を見事に挫いて彼に一點の黒星を與へた。第四回戦には専修大學組み、原、西村、山口の三君何れも惜しい勝を敵に譲り、第五回戦では大正大學組み二點を護つたのみで勝越した。本學村上選手は土付かずで、個人優勝戦出場資格を

得た。第二日午後四時より愈個人優勝戦に入り、本學村上は慶大前田組み力戦大いに努めたが、遂に勝たず、涙を飲んで土俵を下つた。個人優勝も對校優勝も共に慶大の手中に歸したが、本學は飽く迄堂堂と戦つて關西方の爲に意を強うせしめ、天晴本學の傳統を恥かしめなかつたことは選手諸君の勞を多しするに餘りがある。

關西大學神戸會設立

豫てより本學學生有志によりて企畫中であつた神戸會は、機愈熟し舊臘十一月二十六日午後七時より神戸市加納町三丁目、日の出食堂樓上に於てその發會式が催された。

同會は神戸在住の本學千里山學舎在學生並に卒業生を以て組織せられ、會員相互の親睦を計るは勿論今後は更に學術的及び運動的方面に於ても大いに活躍せんとしてゐる。既に運動的方面に於ては野球部、ラ式蹴球部、端艇部の設立せられ居る由である。當夜の發會式は頗る盛大に行はれ、互に歡を盡し、自己紹介記念撮影を終つて談笑裡に散會した。因に當夜の出席者は左記の通りであるが、同會では、神戸を中心として附近よりの通學生並に卒業生諸氏の入會を希望してゐる由である。入會申込は當分の間、神戸市東須磨財場町五岡定久氏宛、及び在學生は法三伊木君まで申込まれたき由。

當日出席者——卒業生——岡定久、角田好太郎、大西一男、黒坂嘉徳、在學生——倉橋、釜野、播磨、伊木、北地、福田、山本、上田、山下、岡部、後藤、岸田、藤尾、日下、小林、木原、小池、前兼吉、若林、宮本、木下、庄司、小坂、森田、貴客、西田、原田、松隈、花本、岡、上田、廣瀬、岸田、小田、松野、三村、林、内田、住江(順序不同)

皇陵崇敬會報

第二十三回例会——昭和二年十一月六日、秋氣山野に滿つる好季を卜して一行は、飛鳥、藤原兩朝の皇居の地たりし彼の高市、磯城並びに多武峰を訪れん。午前八時大軌電車にて八木に至り、省線畝傍驛より櫻井驛にて輕便鐵道に乗換へ宇陀が辻に下車し徒歩する。こゝ暫らくにして舒明天皇押坂内陵に参拜した。續いて大伴皇女の墓、鏡女王の墓に詣でた。それより鳥見山を東方に見て、山路にかり多武峰へ進む。途中、崇峻天皇倉梯岡上陵に参拜した。こゝより櫻井からの道と合し、自動車來往も稠くなり、約一里許りで多武峯に達する。高さ約海拔六百米にして瀧がある。其處で會員溝邊氏の御盡力に依り同氏の御親戚六條氏宅に二時間餘を過し後別格官幣社談山神社に参拜した。藤原鎌足を祀り祭日は十一月十七日である。初め鎌足の墓に付き、其の子、僧定惠妙樂寺を建て之を祭り、明治維新の際之を廢して別格官幣社に列せられたものである。それより一行は山を突破する毎に意氣愈昂り西國三十三所の第七番の札所として世に聞えてゐる岡寺に詣でた。法號を龍蓋寺と言ひ、天智天皇の二年後岡本の宮を捨てて僧義淵に賜ひ本寺をなしたものである。次に岡寺に並び聞えた古刹橘寺に参る。こゝ高市村橘は聖德太子の御誕生地であり、従つて日本佛法最初の地であると言はれてゐる。現今は佛頭山上宮皇院と號し、聖德太子の創建にかり用明帝の別宮址であり、聖德太子の像を安置してある。

夕刻一行は川原寺及び檀原神宮に参拜して一日の行を終り神宮前より歸阪の途に就いた。

尙當日種種お世話下され一層有意義に一日を過すことを得た六條氏並びに溝邊氏に對して誌上を通じて深く感謝の意を表する次第である。因に當日の参加者は次の通りであつた。

河村教授、賀來講師、齋藤湊、森井惣吉、溝邊文和、湯川政一、清水正、小田切西、奥川武郎、藤本武之助、河村信典、白石、白川の諸君（奥川君報）

關大俳句會例会

關大俳句會は昭和二年十一月十九日（土）午後一時から千里山學舎クラブ・ハウスに於て一茶忌を卜して例会開催、兼題は「小春・柘榴」にて各自批評を交へ時のうつるを忘れ、薄暮散會、會者八名。

千里山音樂部報

昭和二年十一月二十日午後六時より内本町大阪府立實業會館に於て本學音樂部主催關西大學音樂會が開催された。當夜は聽衆堂に滿ち曲目の進行に連れて酔ふが如く、極めて盛會であつた。因に當夜の曲目は左の通りであつた。

曲 目

第一 部

關西大學學歌

一 マンドリンオーケストラ（プレクトラムソサエティ）

エテイ

圓舞曲 ステラ ファンタウジイ作



式會發會戸神學大西開

- ニ コーラス（Y.M.C.A. グリークラブ）
- 三 マンドリン五重奏
- 野路の夕
- 一 朝
- 二 詩人の夢
- アマダイ作
- マネッテ作
- 四 ハーモニカバンド（ハーモニカソサエティ）
- 一 獨奏 フラディアポロ オーベル作

- 二 合奏 軍隊行進曲 シューベルト作
- 五 マンドリンオーケストラ
- 幻想曲 ミレナ マチヨッキ作
- 六 ジャズバンド
- 一 シーイズ マー デイジー（ツイステップ）

千里山辯論部報

昭和二年十二月四日午後一時より天王寺公會堂に回て千里山辯論部主催、大阪時事新報社並びに千里山學友會雜誌部の後援に依り部員

- ニ キャラバン（フォックスロット）
- 三 オンミアミ ショアー（ワルツ）
- 四 ティティナ（フォックスロット）
- 休 憩
- 第二 部
- 七 マンドリンオーケストラ
- 一 序曲 惡魔の囁き マチヨッキ作
- 二 西班牙風組曲 ゴルドベルグ作
- ハ コーラス
- 希望の島 ジョーンス作
- 九 マンドリン四重奏
- 一 糸杉の蔭にて サルトオリイ作
- 二 西班牙風 小夜曲 シブローネ作
- 十 ハーモニカバンド
- 一 獨奏 カルメン ビゼー作
- 二 合奏 砂漠の隊商
- ニ マンドリンオーケストラ
- 大幻想曲 ムーア人のグラナダ ガルシア作
- イ 前奏曲
- ロ ボアフデイル 王のグラナダへの別れ
- ハ アラビヤ風 小夜曲
- ニ 舞踊終曲
- 三 ジャズバンド
- 一 ダンス オリエンタル（フォックスロット）
- ニ カティンカ（同）
- 三 パロセロナ（同）
- 四 オーベラ（同）

卒業記念及び陪審法普及宣傳の意味に回ける模擬裁判を公開した。當日のプログラム並に模擬裁判案の概要は左記の通りであつた。

プログラム

- 一開會之辭 司會者 萩原精治
- 一挨拶 本學辯論部長 佐々教授
- 一後援の辭 大阪時事新報社 記者
- 一送別之辭 本學大學部部長 中石清一
- 一送別之辭 本學豫科部部長 白川惠宣
- 一挨拶 本學辯論部部長 清水政秀
- 一陪審法説明 本學辯論部顧問 戴下益治
- 一模擬裁判 本學辯論部顧問 樫本信夫

模擬裁判案——殺人窃盜事件

それは菊池寛氏の傑作として有名な「恩讐の彼方に」ある物語を現代化し陪審法による模擬裁判に附せんとするものであつた。

役々人裁判長(樫本信夫)、判事(伊藤新治、尾崎秀治郎、検事(戴下益治、伊藤精治)、裁判所書記(田中基次)、延丁(高橋政一)、巡查(中村徳藏)、辯護士(清水政秀、原田満、中石清一、田中義雄、春原源太郎)、被告浪花市九郎、加納憲介、同いゝ(原良人)、證人(中川實之助、(月根泰雄)、同山本ウメ(鳴尾芳太郎)、同關口八郎(嘉根勘治)、同早風安一(小山良次)、陪審員長(増子一巳)、陪審員(長巳孝治、尾崎米一、岩崎長次、三木八郎、奥村正一、貴島清治、木下庄一、大西藏一、淺利猪一、越智比古一、大谷綱郎、月谷秀應、青野昌平、矢野三郎、白川惠宣、福田俊一、西田竹夫、村上七生、早川巖夫、大江隆一、松田卯三郎、矢上徳、長澤健一、西村義夫、武田晴夫、進正男、澤田金康、鈴木勇雄、野村義雄、米田恒俊、徳谷卯平、阿部正貫、上田國一、辻武男、佐坂淳一郎)

拳闘部報

十一月九日本學千里山リンクで舉行された、大阪高工、大阪高醫、本學大學豫科三校對抗拳闘試合に於て、次の如き成績で、大阪高工ミ引別けミなつた。(○は勝)

- パンナム。三谷(本學) 新谷(高醫)
- ▲井筒(本學) 分 淺敷(高工)
- 宿茂(高工) 分 飯田(高醫)
- ▲高井(高工) 高見(高醫)
- ▲高井(高工) 分 橋本(本學)

千里山ラ式蹴球部報

對天理外語ラ式蹴球部——十一月十九日午後三時半天理校庭に於て開始審判脇野氏、前半本學一ゴール天理一ペナルティゴール、後半本學二トライ天理一トライで十一對六で本學大勝した。

對大高ラ式蹴球部——十一月二十三日午後二時より大阪高校校庭に於て、レフェリー巖、本學反則多ししばしばフリーキックを奪はれ前半大高二トライ一ゴール、後半、三トライ、一ペナルティゴール二十三對零で敗れた。

千里山庭球部報

對山口高商庭球部——十一月十四日山口高商校庭に於て本學對山口高商庭球部を舉行し、九對零で本學大勝した。

(第五頁より續く)

Erforternisse)を充足するものでなければならぬ。如何に人智を盡した新たな創造であつても人類の使命人類の安寧禍福ミ何等關係

なきものは法律的價值判斷に於て之を發明ミ稱するこは出來ぬ。然しながら一方發明は斯る人類の慾望を充足せしむべき唯一の手段たる事を要しない、少くも慾望充足の一資料なれば足る、又發明は人生に何等かの效用あれば足り人生に缺くべからざるものたるこを必要としない。又社會的慾望の充足に際し不利益を伴ふことを妨げない、例へば新發明の燈火が一方に於て熱を發し空氣を幾分惡くする缺點があつても使用に差支なき程度である限り依然發明たることを失はない。又從來の類似の發明に比して不完全拙劣なものであつても同一の目的を達する爲に數多の手段が必要である以上やはり發明ミして之を保護する必要がある。

發明に依り充足せらるべき慾望は現在慾望たることを要し未來慾望であつてはならぬが絶えず生ずべき性質のものたることを要しない。戰時に使用せらるべき發明は假令國際平和の時代に於ても保護せられるし鑛山探掘用の發明は從來鑛山探掘を營まざる國に於ても保護せらるべきである、次に慾望は社會的のものたる事を要する、即ち全世界の主なる住民が之を有する程廣まりたるものでなければならぬ。最後に慾望は假令稱讚すべき慾望でないにしても少くも推薦し得べき慾望でなければならぬ。直接公序良俗に反する慾望を目的とする發明は保護の資格なきは勿論である。而して何が公序良俗に反すべきかは其國其時に於ける社會の通念に従つて決するより外に道はない。避妊法に關する發明を特許すべきか否かの問題も要するに右の見解の如何に依るものであらう。(一九二七・一二二五)

千里山俳壇 朝 冷 選

廣田弘應

山頂は禿けたる裾の紅葉哉
魚飛んで水鳴る秋の夕かな
柿食ふて村をはなる、夕かな

池田昌壽

遠山は晴れるて松の時雨哉
ざりく木の葉に山の時雨哉
馬の背の塵にしみ入るしぐれ哉

金子龜來

丘の上のボブラ落葉に夕日哉
秋の蝶追はる、庭の焚火哉
草の實の彈ぜ飛ぶ水に日ざしけり

西本水明

大輪の菊しろく明治節
萬木のひそまり晴る、明治節

白川千代治

茴香の實を干す秋の扇哉
蜻蛉になほ日ざしある渡舟哉
鐘樓より見下す月の都哉

高枝の萩ふみこほす雀かな
コスモスや夕日に汲める桔槔
空舟を戻す夜長の渡守

宇治龜石(一句)

霧動く通天橋を渡りけり
萱深く沈める萩や高雄口
さ、なみに浮く龜石や水の秋

秋晴や湖にさし出て野洲郡

追 加

初空を仰ぐや岩をうつ濤に
御降りに燈の花ざく庭木哉
(第一七頁へ續く)

陸上交通の發達とその地理學的考察

關西大學講師 中村良之助

交通の發達は自然的條件と人文的條件によつて決せられる。山岳、河川、平原、高原、沙漠、海灣等の所謂地勢・風・海流、氣温、晴曇等の氣象は即前者に屬するもので交通地理學上之等の凡てを包含して自然的地位と稱する。交通の發達上大なる制約力を有するものである。次に宗教、經濟、政治等の社會的組織と人口密度、文化等即後者に屬するものは、是を前者に對して人文的地位と稱し交通の發達上之は寧ろ發展原力となるものである。換言すれば交通現象が隔地間の物資、人類及其思想を移動又は交換せんとする欲望に發する以上文化が進み欲望が複雑多種なるに従つて交通の形式及機關の發達も多樣化は必然的に結果せられる。即隔地相互が其交通に依つて齎らされる効果に對する欲求の程度は交通の發達に就いて重大なる要因となる。又軍事、政治等の特別な目的を有するものは別として今日の交通は大部分營利的企業であるから其事業上の成否、即建設、經營、維持等の財的收支が果して償ひ得るやこいふ成功可能性が交通の發達を決定する一要因なるのである。斯くて交通の發達は産業上の發達と相因果して其地の經濟的發展を招來するのである。

然し實際上多くは交通の型式及機關の改良進歩が其地の需要を誘導決定し、富源の開闢照介をなすのである。

現代の交通は場所によつて陸上、海上、空界の三様に分類せられるから其發達を述ぶるに就いても之に従て三分する。今は其中陸上交通の發達について述べるに止める。

陸上交通には諸種の機關が存するが是は道路と軌道といふ二型式に大別出来る、前者は單なる道路其の者此上を馳驅する自動車、獸等あつて人類の出現と同時に始まり今日に至る迄否將來に於ても依然として存し交通領域の大部分を占めるものである。後者は其交通量と交通効果の偉大な點に於いて今日交通なる特稱語に對し重大なる意義を有するもので特に汽車は其代表者である。

此外に多少性質が異なるが陸上交通に含まれるものに内陸水路 (Inland-water way) がある。之は時に海陸兩交通の中間的地位にあるものがあるが又大陸に封鎖せられて純然たる陸上交通の範圍に屬するものもある。シベリアの大河 Volga の二河は其適例である。茲に陸上交通の發達に關し説述するに當つて地例を南米大陸に採る。其理由はアンデスの高山系及其東部斜面系、且平原系、アマゾン河系、ブラジルの高臺と沿岸地、温熱雨帶の互る點等自然的條件の説明につきて地例の豊富な點に存する。一般に北米に比して南米の交通の發達が遅滞たるは一つは僅かに世界人口の三(六六—六〇)百萬を擁するに過ぎず、需要の少ななるにも原因するが他に地勢上産業上の不利が其發達を阻害してゐるからである。

然し此大陸は地球上約十四%の人類適住地を有するから將來必らず經濟的活動に其貢獻の顯著なものある可く期待せられ、従つて其交

通發達如何に就いては世界各國は等しく注目してゐる。此意味で吾人は南米が其人文的條件の説明に當つても地例の豊富な事が看取せられる。之が採用理由の二である。

即吾人は南米の交通發達を記し既述の二條件と照合し併せて南米の經濟的發展をも畧叙する。

アンデス山系

Sierra の平原が一般に人類の生活に不適當なるに反し Andes の山地は熱帶なるが故に實に尙大陸最初の集團的生活地となつた。十一世紀より十五世紀に互る彼の Inca-Yunca 帝國は、中部アンデス山地の故都 Cuzco を中心に各地の溪原、沃野の部落を經過する通路を設けてアンデス交通の最初の體系を基立したのである。元來是等部落の所在は内陸而かも山地なるにアンデス縦谷の地理的特相は其相互交通の爲に南北の幹線路を建設するに至つた、之れ全く高山國の常として起伏常ならざる道路の交通障害と低地の暑熱を慮り一定高度の地を通過する路の交通能力の大なるを認めた爲で Cuzco より北東に Ayacucho, Jaaja, Cero de pasco, Huancu, Huamaco, Cajamarca を通過する一線が主なのである。そして必要により溪谷、山脈の切斷點、低下地を利用して緯線的支路を分岐して其或物は沿海部落に達したのである。然し是も自然的條件と人爲的條件とが妥協し得る場合でインカ國が後に四百年連綿たりしカラ王朝を亡し Ecuador を占領した時は沿海低地の Tumbes 及び Quito に至る向斜道路を造つた。其理由は前述幹線の北端 Cajamarca の北方に Amazon の原流がアンデスに近接

し Frosion Valley を形成せるを以て寧ろ此點を迴避するの得策を知つたからである。是と同様に Quito の北方の Knot of pasco として知らるる地はアンデス山系の諸脈が集合し來る所で當時の人力では此天險は如何にもなし得なかつたのである、之は單に交通上の障害をせしのみならず實に南米のワシントン—彼の Simon Boliver によつて政治的統一の難關であつたのである。

Cuzco 以南の道路即大體南緯六十度の間は乾燥原をなし其一線 Arequipa に至る道路は散在せる Oasis を縫ひ行くに過せず Bolivia 高原に至る道路も用水の便否が季節によつて變化するを以て通路も一定し難い状態にあつた。此外 Argentina の Tucuman に至る如きは今日尙アンデス山中を行くには Allurium 底谷を通行するの餘儀なき状態である、是は全く Cuzco 以南の泥沙の地が道路建設用の石材に缺乏せるに起因するのである。更に南下して Chili に至らんか唯木標のたつて行方を示すに止まるのであつた。然るに Francisco Pizarro がインカ國を亡すや早くも此地方の礦産の豊富なるに著目し Spain は土人を使役して盛に金銀を採掘しスペイン人の移住者は翕然と此地に集り諸所に鑛山都市が出現するに至つた。Potosi, Oruro, Cero de pasco. 等は其代表者で従つて其產出物を沿海の外港に、又居住民の生活物資を鑛山地へ補給する爲めに Packtrain を主とする拓殖路(緯線路)が新設され又は改修されるに至つた。ポトシの如きは十七世紀に、十六萬(現在約三萬)の人口を有し四通八達道路を以て此都を一大商業地を兼ねしめたのである、十九世紀に之等の地

がスペインの羈絆を脱し其國家的基礎を定めるや等は等の通路の主なる者は鐵道に代つた。

チリの Caldera-Copapo 間の鐵道は全く鑛山開發の爲である。次に銅、鐵、石炭、硝石等の採掘せられるや其產出地(北部チリ高原)ミ沿海積出港の間に現在見らるる如く多くの緯線の鐵道が實現されたのである。是等は抵十九世紀末より大戰前迄の發達に屬する。

之に反し南北即經綫的鐵道は一九一〇年迄は太平洋岸斜面にアンデス山脈に沿ふて縱走するしかも短距離のものが有するに過ぎなかつた。然るに一度チリが外洋航路にのみよる自國交通經濟寧ろ軍事上の安全の期し難きを悟るやアンデス縱貫鐵道の完成を企劃し一九一四年 Valparaiso の北方 Cabildo-Barrier (アンデス山脈が海に迫る所)を切開して茲に南は Puerto montt(S.42)より北は Pisagua

(豫定は Arica に至る)に至る間を連通し多年の宿志は實現したのである。之は更に北方で Antofagosta-Bolivia 鐵道及 Arica La pas 鐵道に連結する豫定である。

ペルーでは鑛山の位置が多くはアンデスの東斜面に屬するを以て太平洋面に至る鐵道はあ

るが組織的な縱貫線は無く加ふるに最近は財政上の苦境にあるを以て大なる發展はない。エクアドル附近は餘り鑛物資源の開拓もなく僅かにインカ時代よりアンデス東麓に農業をなす土人が散在せるに過ぎなかつた。後スベ

イン人の來住する者大抵は沿海低地の不健康地を避けて山間に遁入し又 Incas も懶惰で一般に需要は少く爲に交通線の集散力も乏しく未だに馬背を借るを最上とするの狀態である。加ふるに人種(支那人、アフリカ人、スベ

イン系人、インカ人)の不統一と政争の禍は折角の天恵も開發するに人もなく、外資の輸入も容易ならざる有様である。國內の一部に今日見らるる Guayaquil-Quito 鐵道も一八八〇年に低地部だけ早く開通したるも他は遅れ全通したのは漸く一九〇九年(一九〇八年

(Eisenbahnferne)は淺く依然として Pack-train の横行するを見れば此地は交通機關の發達に先行して産業的潛勢力の醗酵こそ更に適當なものであらうと思はれる。アマゾン河系 Amazon = Amazonas 河は一五〇〇年 Vincente



?)である(途中最高一九、〇〇〇呎の高所を通過す)此鐵道の使命は内地物産を外港に依つて世界の商業場裡に送るにあるも目下は未だ其域に達せず國內の高低地間の物資の交通に供せられるのみ。而も能く一線の鐵道距離

Yanez Pinzon 氏の發見する所、實に淡水海の名に背かず流域は低濕多熱密樹林に掩はるるに於ては到底人類の生活適地たり得ない所として多年土人の小舟を操りて漁するかボリヒア農原に Incas の散住するにまかせたの

であつた。然るに十九世紀末より舊大陸の人口増加は遂に南米への移住を速進し此地方はゴム其他の熱帶農林產物の採取栽培に利用せらるるに至り一九〇九年ゴムの産額の最高潮期に至つて本支流に互つて目醒しき航路の開拓が行はれた。アンデス東斜面の沃地の產出

物は必らず此水路に依つて大西洋に而して世界市場に齎されたのである。航洋汽船は此期(兎)角 Manaus (普通定期航路の終點) Iquitos を始め各支流に互つて定期航路を開いた。上流に三、〇〇〇哩の可航水路を有するボリビアは

Madera-Fall の難關が鐵道によつて打開せられ外洋に直開するの機を得るに至つた。然らばアマゾンに養はるる中下流は如何に。一般に河川の受益は下流に大なるに反し此河はかへつて上流アンデス東麓の地に恵多く而も此地を直接水界を以て大西洋に連結するのみで中下流は全く熱帶濕潤林の繁茂に委するの外なく敢えて此奇觀を呈する。之

を見れば Hylea の自然的景觀が如何に堅く人類の生存と利用を拒否せるか、又アンデス東麓此河の地理的特相について吾人は深く考へねばならないのである。更にアマゾン數千哩の遡航の勞力と費用の一切がアンデス東

を見れば Hylea の自然的景觀が如何に堅く人類の生存と利用を拒否せるか、又アンデス東麓此河の地理的特相について吾人は深く考へねばならないのである。更にアマゾン數千哩の遡航の勞力と費用の一切がアンデス東

を見れば Hylea の自然的景觀が如何に堅く人類の生存と利用を拒否せるか、又アンデス東麓此河の地理的特相について吾人は深く考へねばならないのである。更にアマゾン數千哩の遡航の勞力と費用の一切がアンデス東

麓の沃野によつて補償せられつつあるを思ふ時誰か此地の豊饒なるに驚かざる可きや。されき一九一〇年のゴム栽培の最好機を記録して漸次斯業は退勢を示し同時に航行船の數も減じつつあるを見るに交通と産業の相關理も肯首出來るのである。

パンパ地方

アルゼンチンの東北部はインカ時代には辛じて通路が存してゐた。爾來アンデスの嶺山都市の勃興と其交通の發達により此地は其交通機關たる駄獸の牧畜場として又は食料農産物栽培地として徐徐に發展して來た。無論此地の經濟的價値は礦產地アンデスの夫れに比して副次的に考へられてゐた。Salta は當時の大市場として賑はつたものである。近年 Buenos-Aires の鐵道網は漸く北境の Gran-chaco の地に延長せられるに至つた。ボリビアは一方アマゾン河による外海通路を求むるも其南部即 Gran-chaco 地方は其經濟活動に要する勞力、資本の供給又は隣接せる平原が南方へ低下せる事及 Parana 河 Pilcomayo 河の南流等の地理的條件は南下政策を有利にするが故にアルゼンチンの交通餘恵を藉るの外なく爲めに Paraguay Uruguay を挟んで Brazil と交通戦を起す情勢にある事は豫知せられる。加之 Buenos-Aires の有する貿易上の地位を認むるなればアルゼンチンは實に其門戸を扼する事を認容し得やう。

北西アルゼンチンには十九世紀の後半短距離の鐵道が竣成した。歴史的に重要な Salta-potosi の道路は Rosaris に航洋船が出入するに至つて始めて Tucuman 迄鐵道は北進した。現在の Rio-Santos, Buenos-Aires 附近に

は已に一八八〇年には相當存した。舊大陸の人口増加は此地にも移民を送つた、豊饒なる地は半世紀ならずして其交通網の發達は世界第二位に至つた。之は全く人口増加に原因する需要の増加と高度なる經濟的活動に依るもので今日此地の農産物、原料品が此等の交通機關によつて如何に多量に沿海の港市に搬出せられるか贅言を要すまい。こは云へ此地に交通發達に關し重大なる二缺點の存する事を見免してはならない。其一是燃料たる石炭の缺乏せる事である。此故に歐洲より來る船舶は何れも石炭を積送し來るのであるが彼の歐洲大戰當時石炭の補給絶え、俄かにチリに供給を仰いだ事すらあつた。處が此相背接せる二國の航海に週日餘を費すので近年此間に Bohia-Blanca より Neuquen 河を逆り Pino-Hachardo 峠を経て Concepcion 及 Lebu 附近の石炭を積送せんとする第二次アンデス越鐵道の計劃あり一部は實現し近く全通するであらう。今一つの缺點は運輸能率及系統上の困難で往復貨物量の不公平な事である。農牧產品を主とする當地は其收穫時には貨物は一時に沿海港方向に多量となり之に反して復路の貨物は貧弱な事である。是は當地は乾燥收穫時に當る穀倉庫の設備なき一は農民生活の準位が低く一方に生産物の換貨を急ぐ他方消費財の少ないに起因するのである。Patagonia は勿論南 Pampas 地方は第四期の新成層で外相の單調は鐵道の敷設に便であり沿線も稍開拓せられてゐるが道路用石材に乏しく且排水灌漑法も不完全で未開拓の地多く道路も泥濘馬背に依らずんば通過し難い地すらあるのである。

汎米鐵道

紐育に起り中南米を経て亞國 Buenos-Aires に終るもので既設の鐵道を連繫し交通上兩米鐵道を總計せんとする意味は一應肯首出來るが政治又は外交上より之を完成させんには偉大なる努力を要す可く、更に中南米には地勢上敷設に困難なる箇所あり沿線の經濟狀態は果して之に堪え得るや俄かに逆暗し難いのである。沿線一部の交通價值即局部的には成果あるも全部價值は全線を有機的に經濟上に貢獻あらしめんとする即全通的旅客、貨物の需要如何を考ふれば其結果は疑はしきものにして有効度は決して強制的敷設に値するものでない。吾人は寧ろ船舶、航空機に依るに如かず考ふる者で何故に鐵道布設の高價なる犠牲と時間、距離の迂迴を希望するや、よしや夫れが交通經濟又は統一上の純理想を標榜する者なりと稱しても吾人は尙裏面に唱導者が爲めにする詭計にあらざるやを疑はざるを得ないのである。現今の如き農牧礦林の原料又は大量物は運賃負擔力小なれば自然水路又は可及的捷路により内陸產品を海港に搬出し大洋を南北に連絡せしむる方が遙かに時金の經濟なるが故である。

南米交通の將來

當大陸は未だ拓殖の青年期に屬する。だから今後人口の増加に伴ひ經濟的發展も異常なものがあるだらう。惟ふに南方 Pampas 地方は當地最大の農産市場の中心となるべく Patagonia は收畜に而して南部アンデス越鐵道 (Concepcion-Bahia Blanca) 完成の曉は從前の亞智間沿岸航路船と競走生ずべく斯くては Bahia-Blanca 交通の衝點となり内陸貨物

の集散場(化) Buenos-Aires, Rio-de-Janeiro と共に南米の三大港市となる可しブラジル沿岸の鐵道網は南西下し Parana Santa-Catharina に及び又内陸に向つても移住民は増加し行くべし。ブラジル高臺の開拓は此國將來の大問題で就いては現今も紛争絶えぬ彼のブラジルウルグアイ、アルゼンチンの國際關係又領土問題は此交通の發達、經濟關係の複雜と共に加速的に重大化するだらう。ブラジル東海岸に現在小港が多數散在してゐるのは海上による沿岸連絡交通の盛なる爲で將來背域の開拓進み陸上交通が便になれば是等小港は一二の優秀港に制限せらる可し。就中現在小港であるが Victoria は其の地位格好なるが故に Minas-Geraes 鐵礦區の鑛材輸出港として當岸に重きをなすに至らん、中部以北は熱帶の常として其產出物の性質により異帶地域との交通を有利とするを以て當大陸外に市場を獲得する工夫を要す可く幸に Amazon Orinoco Magdalena の水路の航行能力は大であるから之が解決の一助たり得可し。雖も之等熱帶地域の經濟上の獨立と發展には熱帶地勞働問題と相關係して重大なる懸案を將來に残すものと思はれるのである。

(第一四頁より續く)

燈を入れてまはる末社や初鳥元日の袂に鳴りし小錢哉鴨吊りて二日となりし厨かな京の雪見て戻りたる三日哉山寺や部の中の三ヶ日

回當季雜誌募集
回封皮には必ず「千里山俳句」を朱記の事
回送稿先
大阪市東淀川區中津濱通五丁目

有 田 朝 冷 宛

故ウィーザー教授略傳

ヨーゼフ・シュムペーター

所謂オーストリア學派の三創設者の最後の人は一九二六年六月二十三日、即ち其第七十五回目の誕生日を迎へた數日後、尙神身の精力を満身に有しつつこの世を去つた。

男爵フリードリッヒ・フォン・ウィーザーは一八五一年六月十日、樞密顧問官男爵レオポルド・フォン・ウィーザーの息として生れウィーンに於て教育された。一八七二年彼はその地で學位を得た。この時期まで彼は好んで歴史的の研究をなしたが一八七二年たまたまメンガーの經濟學論に會するに及んで之を熟讀し、爲めに經濟學に研究の方向を轉ずるに至つた。彼は斯くして自己の前に拓かれた道を引續き直進したが其期間はハイデルベルヒ大學並びに之に次ぐエーナ、ライプツヒヒ兩大學に於ける研究時代及び一八八三年ウィーン大學の「私講師」なる前の短い行政官時代に及んだ。一八八四年ブラーグ大學に招聘せられた彼は一九〇三年カール・メンガーの後を襲つて遂にウィーンに歸つた。彼の生涯に於ける諸の小事件を省いて私は次の如きことを記するに止めやう、彼は一九一七年終身議員として貴族院に入り同年大藏大臣として内閣に列した。而して辭職後は再び教職と科學的勞作とに歸り來つたのである。

一言一言に重みを加へ又他のものは彼の人格に深い藝術家的氣品を添へた——、又はその博識をあらはす彼の言動の勝れた落付き等すべてこれらは筆舌のよく盡すところではない。恐らく私の爲し得る唯一のことは斯く語るべきであらう、即ち我が會つて彼の生誕七十年の記念會を催ふせる時、私をも含めて三人の演説者が各期せずして彼をゲートにたゞへたことである。彼は常に元氣で、決して取り急ぐことなく、凡てのものに興味を有し——就中彼は優秀な美術鑑識家であり且つ美術の熱心なバトロンであつた——、又何ものにも惱むことはなかつた。彼のきこかには魔力の如き美點があつて如何なる公私の不幸も雖もこれを奪ふことが出来ないやうに思はれた。あらゆる名譽も成功も彼には自然に、何等の努力なくして與へられた、そして恰も最初から彼の身に着いてゐた如く彼を包んだ——而もそれらは彼にまつて物の數にもあらざるが如く人には見えるのであつた。彼は何ものかに與し又は之に反對して戰ふ等のことを決してしなかつた——而も如何なる困難も彼の前には道を譲るが如く見えた。そして他の人を亡ぼす老齡でさへも彼の人格を完成する上に於いて恰も龍を描いて點する晴の如きものであつた。

彼の科學的業績の特質を僅少な紙上に於て説明することは更に難き業である。特にイギリスの讀者に對してその然るを覺ゆる。何となれば彼の表現方法は極めて非英語的であつて、實にスマート教授の手になる彼の著作の有名な部分譯でさへも彼の眞の地位をイギリス及びアメリカの一般人に知らしめる上には餘り多くを爲してゐないのではないかと疑はれるのも尤もなのである。彼は技巧に缺けてゐた、而して明晰な思想必しも簡明な著述にあらずと云ふ世に稀な場合の一例であつた。從來あらはれた彼の傳記中の白眉たる F.A. von Hayek のそれ—— Jahrbucher für Nationalökonomie und Statistik, 1926 中にあり——の附録には六十二項目に亘つて彼の著作表が掲げられてゐる。我々は彼の思想の一般的傾向を簡單に示すことを以て満足せねばならぬ。

彼は先づ第一に理論家であつた。メンガーが彼の爲めに爲したところのものも餘り大ではなく、彼自身の思想を發展せしめる刺激として一の觀念を與へたに止まつた。價值學說の根柢を彼程深く考へ或ひは經濟學の基本的勞作に對して彼程明確な觀念を有し來つた人は殆どない。彼は壯年時代の精力を傾けて根柢よく經濟學の目的と方法を研究し通した。その結果は Der natürliche Wert (1889) と題する彼の著作に要約されてゐるが、彼がこの書を成すに至るまでには尙 Ursprung und Hauptgesetze des wirtschaftlichen Güterwertes (1884) の著がある、この書に於て彼の「限界効用」説、「間接効用」に依つて説明せられた生産費説（バンタレオーニがウィーザーの法則と稱する定式）及び歸屬（Zurechnung）價值説が始めて公にせられた。これらの事柄は既によく知られてゐる。私がここに力説しやうとする點は彼の個個の方法や定式の重要性ではなくして、全體としての經濟生活に關する彼の概念の深さと廣さである。此概念は共產社會を考察するに當つて用ひられた方法に依つて得られたものである。其後價格平衡の説は長足の進歩をなしたが、最近に於ては——若し私の見るところにして大過なしとすれば——、問題は今やその結論に達しつつある、而もその結論たるや多くの人が目して以て陳腐なりとするこれらの根本觀念に再び五〇人を歸らざるを能はざらむるやうである。

「自然價值」の出版後彼はこの方面の思想を捨てて二十年間顧みなかつたが、一九〇九年再びこれに立ち歸り、かの百科全書式の「社會經濟原理」(Grundriss der Sozialökonomik) 中に「社會經濟の理論」(Theorie der gesellschaftlichen Wirtschaft) なる著述を公にした。これ純理論に關する彼の最後の、又最も圓熟せる教書であつて、それは大戰に妨けられて今日に至り漸く世に影響を及ぼし初めつつある。

を試みた。貨幣學説を眞に理解せる人は餘り多くない。而してそれらの人の意見には幸にして共通の點が頗る多く意見の相異たるものも個個に見れば、趣味や技術上の差異を出づるは極めて少い。従つてウィザーの所論もその大部分は必然的に他人の夫と平行してゐる。しかし或る點に於て——それらの點は後に F. X. Weiss & L. v. Mises 等に依つて發展せしめられた——ウィザーの所論は事物の表象を貫ぬいて深くその根柢を衝いてゐる。こゝ他の何人にも勝れり考へられる。

然るに晩年に於ける彼の研究は専ら社會學に集中せられた。但しここに社會學とは一の歴史分析、或ひは彼がその豊かな新語鑄造力に依つて定義せるに従へば「名なき歴史」の意味である。史的社會學或ひは社會史は彼がその



故ウィザー教授と教授が在
りしウィーン大學



題する偉大なる社會學上の著述を出版した！
斯くて彼はその學生時代既に爲さん心中に
期してゐたところのものを完成し且つ此方面

生涯に於て先づ第一に興味を有したものであつたが、又同時にその最後のものたるべき運命を有してゐた。年少氣鋭の精力を以て多年此問題を研鑽した後、彼は七十四の歳に至つて「權力の原理」(Das Gesetz der Macht)を

なかつた。この一生の凡ての要素は一の階調ある全體の一部をなしてゐた、而してその全體は徐徐に擴り有機的に生長して行つて驚くべき高さに達したのである。(近着イコノミック・ジャーナルより—T. M. 生譯)

The Kansai University Bulletin

Published Monthly by

The Kansai University Press

No 55.

January, 1928.

LEADING FEATURES OF CONTENTS

On the Definition of Invention in the Legal Sense... by Mr. T. Nomura, Lecturer of the University.
The Development of Land Transportation... by Mr. R. Nakamura, Lecturer of the University.
University News.
Alumni News—Mr. T. Gotoda, Alumnus.
Students' Activities.
Miscellanea—The Short Biography of the late Professor F. F. v. Wiser.
Illustrations—Crepusculum at Senriyama Compound of the University—H. E. Count Bassonpierre, Belgian Ambassador in Tokyo, Planting at tree in Commemoration of his visit to the University—Farewell-Meeting held by teaching staffs of Second Commercial School in honour of Prof. Miyajima and Mr. Kinoshita—Mr. T. Gotoda, Alumnus—H. E. Count Bassonpierre, Belgian Ambassador in Tokyo, and the Students of the University—Inaugural Meeting of Kobekai, a Students' Party—The late Prof. F. F. v. Wieser and Wien University.

謹告

拜啓益御健勝奉慶賀陳ハ舊臘二十九日開催ノ役員會ニ於テ理事増山忠次氏ヲ専務理事ニ互選致シ同氏ニハ御受諾御就任相成候ニ付然様御承知被下度此段御通知申上候
敬具

昭和三年一月

財團法人關西大學總理事

山岡順太郎

校友各位

製複許不

大正十一年六月十五日創刊
昭和三年一月十三日印刷
昭和三年一月十五日發行

編輯兼發行人 森川太郎

印刷者 飯田彌之助

印刷所 鐵三有社

發行所 關西大學學報局

大坂市此花區上福島

福島學舎

關西大學

大坂市外千里山

千里山學舎

關西大學

電話 吹田 一 二三

謹賀新年

昭和三年一月一日

關西大學

役員	一同
教職員	一同
關西甲種商業學校教職員	一同
關大第二商業學校教職員	一同
關西大學擴張後援會役員	一同
學報局員	一同
校友會役員	一同
校友會大阪支部役員	一同
校友會東京支部役員	一同
校友會名古屋支部役員	一同
校友會和歌山支部役員	一同
校友會神戸支部役員	一同
校友會姫路支部役員	一同
校友會岡山支部役員	一同
校友會高知支部役員	一同
校友會愛媛支部役員	一同
校友會福岡支部役員	一同
校友會朝鮮支部役員	一同
千里山學友會委員	一同
福島學友會幹事	一同

關西大學校友
並ニ御關係各位

大學令ニ據ル

大學豫科

募集學年	第一學年
出願期間	二月十五日ヨリ四月五日マデ
試驗科目	英語、日本作文、代數
試驗期日	四月七日ヨリ同九日マデ

關西大學學生募集

專門學校令ニ據ル

專門部

募集學年	第一學年
科別	法律學科、經濟學科、商業學科文學科
出願期間	二月二十一日ヨリ三月三十一日マデ
試驗期日	四月二日

詳細ハ郵券五錢添ヘ志願學科(大學豫科又ハ專門部)明記ノ上福島學舍教務課宛ニ照會

大阪市外千里山 關西大學千里山學舍

電話吹田一二三番

大阪市上福島 關西大學福島學舍

電話土佐堀一〇四九・五五七〇番

○募集人員 第一學年二百名 尋常小學校卒業

○出願期間 三月一日ヨリ同二十五日マデ

關西商業學校生徒募集

○入學試驗 三月二十六日(人物、體格)

○入學心得 其ノ他ハ本校ニ就キ又ハ郵券五錢送付

大關西學島福市上島

關西大關西學島福市上島

關西商業學校生徒募集

○募集人員 第一學年約百八十名 尋常高等卒業

○出願期間 二月二十日ヨリ三月二十四日マデ

○考查期日 三月二十五日(人物、體格)

○特長 甲種認可、修業年限三ヶ年、夜間教授

大關西學島福市上島

關西大關西學島福市上島

(會照ニ校本ヘ添フ錢五券郵ハ細詳)

第一部 五ヶ年制(文部省認定) 一年一〇〇名、上級若干名

北陽商業學校生徒募集

第二部 本科四ヶ年制(文部省認定) 一年一〇〇名、上級若干名

願書 二月十五日ヨリ受付

大阪市東淀川區(天六ヨリ約五分)

新京阪電車淡路下車東へ

電話 北七五七番

謹賀新年

(業務要項)

會計ニ關スル
檢査、調査、
鑑定、整理、
立案

計理士 江村至身

事務所

自宅

大阪市北區堂島ビル二〇一號室
江村計理事務所 電五八九〇番
大阪市住吉區濱口町二十八番地

謹賀新年

昭和三年一月一日

千里山學報 第五十五號

關西大學
同第二商業
關西甲種商業
御用

歌橋寫真館

大阪市此花區上福島中一丁目
電話土佐堀七二二七番

關西大學
同第二商業
關西甲種商業
指定洋服商

大阪市上本町六丁目

長谷屋號

電話南(一四五一)七九〇八番
振替大阪五五三八番

●今宮支店 ●釣鐘町支店
●本店ティールーム

文房具、制帽
雜貨、食料品

關西大學給品部

千里山學舍學生控所
福島學舍學生控所 內

專門的知識に依る優良品
—— 純良且安價 ——

關西大學御用達

新らし屋帽子店

大阪市此花區上福島淨正橋通
(但阪神踏切南延命館南隣)
電話土佐堀五七〇五番

關西大學
關西甲種商業
指定

山本靴店

大阪市此花區上福島北一丁目
(但淨正橋筋大和田銀行前)

關西大學
同第二商業
關西甲種商業
指定

大阪市此花區上福島北三丁目

明文堂野島書店

電話土佐堀一二八六番
振替大阪三九九一番

本學校友 野島藤次郎

宮島綱男先生監譯

マーシャル經濟學論集

菊版布裝全一冊
紙數七百餘頁
定價金五圓五拾錢

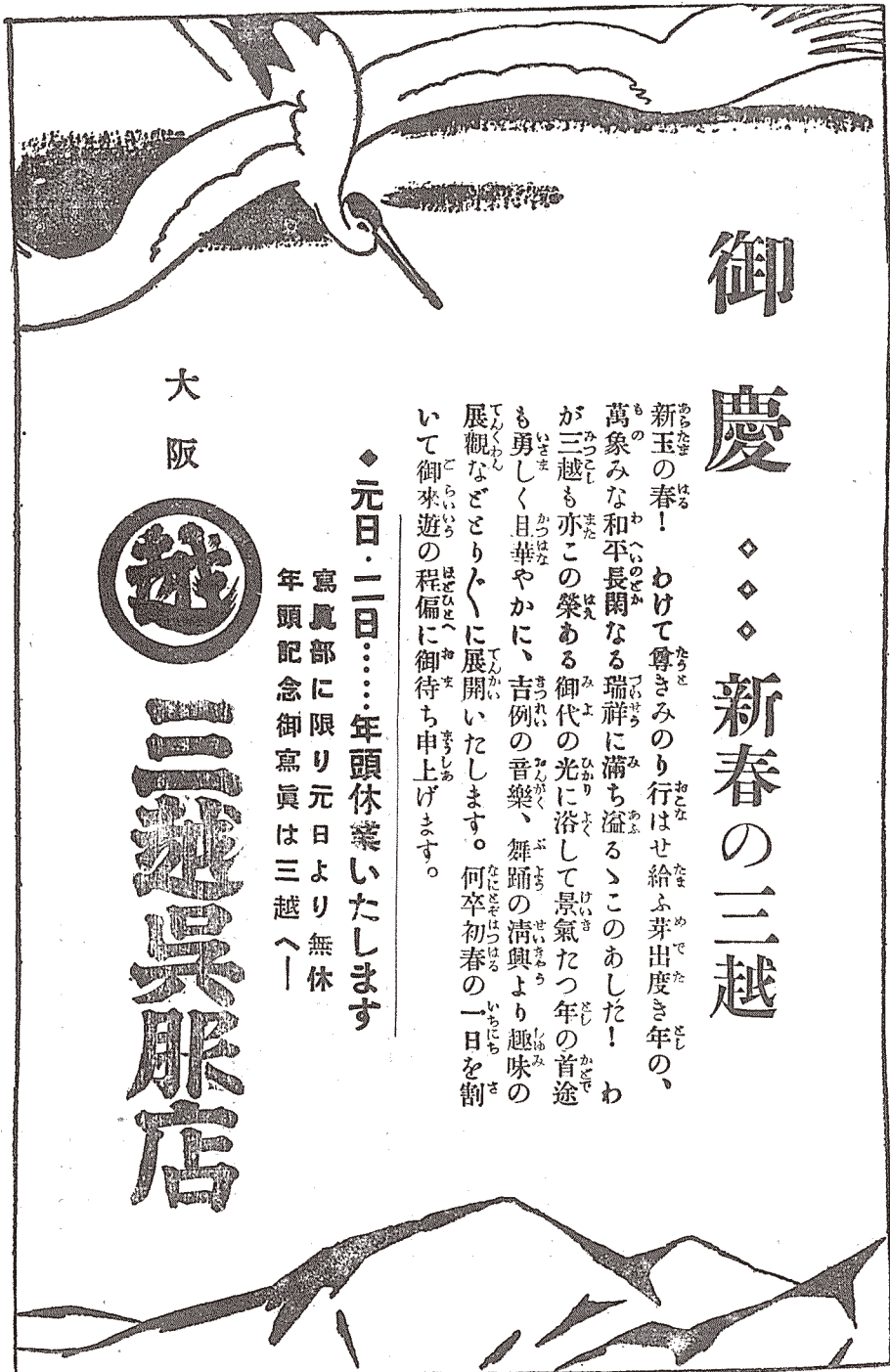
本譯書の原書は、三年前物故せる世界經濟學界の泰斗アルフレッド・マーシャルの業績を記念するため、その高弟エー・シー・ピグー教授が編纂發行せるものである。收むるところ遺稿中その創意にかかる學說並びに實際問題に關する論文二〇篇を主とし、加ふるにピグー教授の回顧録、ジエー・エム・ケーンズ氏のマーシャル傳その他親しく故人の教へを受け、現に單り英國に於てのみならず、全世界の學界に名を競ふ經濟學者數氏の筆に成る恩師を偲ぶ文献數篇を以てしてゐる。啻に經濟學の研究に志す學徒に取つて必讀の書たるのみならず、一個の人格として偉人が印せる足跡を辿る意味に於て、一般讀書子に取つても亦悉く金玉の文字たるを失はぬであらう。尙ほマーシャルの主要著作は從來既に大部分邦譯があつて經濟學の研究者を裨益しつつあるが、今亦本譯書の出づるやこれらの譯書と相俟つて我國に於けるマーシャル研究を一層完全ならしむることを得るであらう。

發 兌

(番〇八二京東替振) 目丁二町保神表區田神市京東

(番三四阪大替振) 目丁四通堀波阿區西市阪大

寶 文 館



御慶

◆◆新春の三越

新玉の春！ わけて尊きみのり行はせ給ふ芽出度き年の、
萬象みな和平長閑なる瑞祥に満ち溢るゝこのあした！ わ
が三越も亦この榮ある御代の光に浴して景氣たつ年の首途
も勇しく且華やかに、吉例の音楽、舞踊の清興より趣味の
展覧なごとりぐに展開いたします。何卒初春の一日を割
いて御來遊の程偏に御待ち申上げます。

◆元日・二日……年頭休業いたします

寫眞部に限り元日より無休
年頭記念御寫眞は三越へ！

大阪



三越呉服店